

令和7年度

市民と議会の意見交換会

報 告 書

令和8年(2026年)3月

旭川市議会

目 次

1	はじめに	2
2	開催の概要	3
	(1) テーマ、開催日時、場所及び参加者数	3
	(2) テーマごとの担当班及び班員一覧	4
3	テーマごとの記録	5
	(1) これからのまちづくり・中心市街地活性化 ～企業・大学・行政・金融機関の役割～ (総務班)	5
	(2) ナイトタイムエコノミーってなに ～旭川・夜の魅力の再発見～ (経済建設班)	15
	(3) ヒグマの脅威を含めた生態や今後の対策について (民生班)	27
	(4) 子育てしやすいまちづくり ～子育てに関わる負担軽減に向けて～ (子育て文教班)	41
4	アンケート集計結果	57
5	アンケート用紙<参考>	67

はじめに

旭川市議会基本条例に基づき、今年度の「市民と議会の意見交換会」を令和7年11月18日、26日、27日、28日の4日間、開催いたしました。

この意見交換会は、市民の皆様の様々な意見等をお聴きすることにより、市長やその他の執行機関に対する監視、政策形成などの議会機能を高めることによって市民の皆様の福祉の向上と旭川市政の発展に寄与することを目的としています。

今回で13回目となりましたが、今年度も各常任委員会の委員で班を編成し、各常任委員会が担当している分野における様々な課題の中から自らテーマを設け、市役所1階、市議会議場、同委員会室を会場として実施し、延べ96人の方々に御参加いただきました。

実施に当たり、大変お忙しい中、企画段階から御協力くださいました団体の皆様、また多くの関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、御来場いただいた市民の皆様から多くの御意見等をお寄せいただきましたことに、心から御礼申し上げます。

この報告書は、各テーマごとの意見交換の主な内容を掲載しており、加えて、各班による意見交換会についての「まとめ」も記載させていただいておりますので、多くの市民の皆様にご覧いただければ幸いです。

旭川市議会

議長 福居 秀雄

開催の概要

(1) テーマ、開催日時、場所及び参加者数

班	テーマ	開催日時	開催場所	参加者数(人)		
				男	女	合計
総務	これからのまちづくり・中心市街地活性化 ～企業・大学・行政・金融機関の役割～	11月18日(火) 午後6時00分 ～8時00分	市役所食堂 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎1階)	14	4	18
経済建設	ナイトタイムエコノミーってなに ～旭川・夜の魅力の再発見～	11月26日(水) 午後5時30分 ～7時00分	市議会議場 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	23	6	29
民生	ヒグマの脅威を含めた生態や今後の対策等について	11月27日(木) 午後2時00分 ～4時00分	市議会委員会室 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	17	7	24
子育て文教	子育てしやすいまちづくり ～子育てに関わる負担軽減に向けて～	11月28日(金) 午後2時00分 ～4時00分	市議会委員会室 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	13	12	25
合計				67	29	96

(2) テーマごとの担当班及び班員一覧

班	テ ー マ	開催日時	開催場所	議 員 名	所属会派等
総務	これからのまちづくり・ 中心市街地活性化 ～企業・大学・行政・ 金融機関の役割～	11月18日 火曜日 午後6時 00分～	旭川市役所 総合庁舎1階 食堂スペース	小林 ゆうき 石川 まさゆき まじま 隆英 高橋 紀博 佐藤 さだお 高橋 ひでとし 高花 えいこ 安田 佳正	旭川市民連合 自民党・市民会議 日本共産党 民主・市民連合 自民党・市民会議 自民党・市民会議 公明党 無所属
経済建設	ナイトタイムエコノミーつてなに ～旭川・夜の魅力の再発見～	11月26日 水曜日 午後5時 30分～	旭川市役所 総合庁舎8階 議 場	いしかわまさき あべなお 江川あや 駒木おさみ 皆川ゆきたけ 高木ひろたか 能登谷 繁 金谷美奈子 杉山 允孝	自民党・市民会議 自民党・市民会議 民主・市民連合 公明党 公明党 旭川市民連合 日本共産党 民主・市民連合 自民党・市民会議
民生	ヒグマの脅威を含めた生態や 今後の対策等について	11月27日 木曜日 午後2時 00分～	旭川市役所 総合庁舎8階 第1委員会室	笠井まなみ 植木だいすけ 品田ときえ 中野ひろゆき 菅原 範明 石川 厚子 高見 一典 松田 卓也	自民党・市民会議 旭川市民連合 民主・市民連合 公明党 自民党・市民会議 日本共産党 民主・市民連合 自民党・市民会議
子育て文教	子育てしやすいまちづくり ～子育てに関わる 負担軽減に向けて～	11月28日 金曜日 午後2時 00分～	旭川市役所 総合庁舎8階 第1委員会室	横山 啓一 中村 みなこ 上野 和幸 たけいしやういち 沼崎 雅之 塩尻 英明 えびな 安信 中村のりゆき	無所属 日本共産党 民主・市民連合 自民党・市民会議 自民党・市民会議 旭川市民連合 自民党・市民会議 公明党

テーマごとの記録

《これからのまちづくり・中心市街地活性化 ～企業・大学・行政・金融機関の役割～》 (総務班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載しておりません。

開催日時	令和7年11月18日（火） 午後6時00分～8時00分				
関係団体	中小企業家同友会、旭川市立大学、旭川工業高等専門学校、旭川市、旭川信用金庫、旭川ウェルビーイングコンソーシアム				
出席 議員 名	班 員	代表・勉強会	高橋 ひでとし	受付	高花 えいこ
		司会	小林 ゆうき	受付	まじま 隆英
		受付	佐藤 さだお	記録	石川 まさゆき
		受付	高橋 紀博	記録	安田 佳正
	正副議長	議長	福居 秀雄		
参加者数	18人				

意見交換の主な内容

意見交換の前に、関係団体として産学官金それぞれの立場からの状況報告等として、今回のテーマに関して次のように発言がありました。

1 中小企業家同友会から

中小企業家同友会は、北海道で約5,700社、道北旭川支部で約600社が加盟する経営者団体です。良い会社作りや地域発展を目的に、経営者同士が学び合う活動を行っています。特に旭川支部では、行政や学校と連携した合同企業説明会を活発に開催しており、地元の高校生に地域の企業を知ってもらう雇用促進に注力しています。会社経営者だけでなく個人事業主も入会可能で、共に学び地域を盛り上げる仲間を募っています。

2 旭川市立大学から

旭川市立大学の新学部「地域創造学部」では、全学生・教員が地域産業と接点を持つことを目指しています。数多くのPBL（プロジェクト型学習）を通じて地域に魅力的なプロジェクトの種を創出し、一度離れた若者が戻りたくなるような環境を整えます。大学の教育研究活動が地域に新しい挑戦を促す意識を醸成し、産業界を中心に「学・官・金」が連携して下支えすることで、旭川周辺地域の活性化に貢献していく考えです。

3 旭川工業高等専門学校から

産学官金連携は目的ではなく、目標達成のための手段であると捉えるべきです。全国

的に連携が普及した現在、成功例は、一定の人口規模と地域に開かれた大学の存在にあり、これらを活用して地域課題を捉える姿勢が不可欠です。それを考えた取り組みが、これからのまちづくりと新たな連携の形につながると考えます。

4 旭川市から

旭川市は令和元年にユネスコ・デザイン都市に加盟しました。その背景には、昭和40年代から家具産業を中心に培ってきた高いデザイン性があります。現在は産学官金が連携した「旭川創造都市推進協議会」を中心に、行政の伴走支援のもと、デザインの力で街をより良くする活動を展開しています。人材育成、仕組みづくり、価値循環の3本柱を掲げ、持続可能なデザイン都市の実現と世界への貢献を目指して、その強みを発信し続けています。

5 旭川信用金庫から

旭川信用金庫は、平成27年から組織的な創業支援に注力しており、創業サポートベースの設置やビジネスコンテストの開催等、年間約100件の伴走支援を行っています。また、産学官金の連携を軸に、旭川高専等との金融教育や、旭川創造都市形成推進協議会を通じたデザイン振興にも参画しています。更に、若手経営者塾の運営や、行政・NPOとも連携した結婚相談所の運営など、連携向上に幅広く取り組んでいます。

6 旭川ウェルビーイングコンソーシアムから

旭川ウェルビーイングコンソーシアムは、平成20年に市内5大学・高専と市が連携して発足しました。後に一般社団法人化し、現在は市が特別顧問として支える体制で大学と連携しています。また、旭川信用金庫による長年の寄附講座や、大学の地域研究所を通じたシンポジウムの開催など、行政、金融機関、大学、市民が一体となった地域貢献の歴史があります。これらを通じて、大学と地域社会をつなぐ強固な協力関係が築かれています。

【市民】

旭川における産学官金の連携は、各組織が市内に存在している以上、協力してまちづくりに取り組むべき当然の形であり、大いに推進すべきです。

しかし、現状の説明は抽象的で分かりにくい印象を受けます。具体的にどの組織が何を担当し、金融機関がどこを支援して、どのように連携を整理していくかを明確にする必要があります。例えば「学」の役割として、市内の知識やデータ、市民の声、他都市の事例などを収集・整理することが挙げられます。

まちづくりとは、その土地の歴史や強みを生かし、住民が暮らしやすい環境を整えることが目的です。弱点があれば、それをいかに改善するかが重要となります。大学等の研究機関には、旭川の長所や他都市と比較した弱点を精査し、情報として市民に発信していただく役割を期待します。

旭川は自然災害が非常に少ない一方で、国内の都市で最も寒いという公式記録を持つなど、冬の厳しさがあります。かつては弱点とされたこの寒さを、ウィンタースポーツ

や雪の利活用によって強みに変える視点が必要です。また、神楽岡公園や春光台に見られるような豊かな緑も、日本国内でまれな財産です。こうした自然環境の中にカフェを設置するなど、緑の力を活用した施策も考えられます。

雪の恩恵による食の魅力も重要です。越冬野菜の美味しさや、雪が土壌の微生物を育み質の高い水を作る仕組みなど、旭川の長所は数多く存在します。

これら旭川の多様な長所をデータとして整理し、情報発信を行う。その内容に対して、産業界と金融界がどのような支援を行うべきかを検討する。こうした具体的なプロセスを経て、まちづくりに関わっていくべきであると考えます。

【議 員】

今のお話で、雪の下で農産物が熟成される話がありますが、より大規模に、品質を一定に保つ、維持できるようなシステムができれば、農家の方々が潤うことになると思います。

どのような微生物を培養するのがベストであるか、研究機関の役割です。起業家の人が、どこに相談するかという、今は行政しか窓口がありませんが、ワンストップで一つの窓口で「大学を紹介します。大学と研究しながらやるべきです。融資もします」と金融機関が応える、ワンストップ窓口というものを作ったら、良い循環ができてくるのではないかなというのが今回のテーマです。

【市 民】

旭川市立大学のシンポジウムで、学生さんの発表を聞かせていただきましたが、学生さんはそれぞれの学部で研究をされていると思うので、学生さんの研究、他の大学の先生方の研究とか、学校の先生がどんな研究しているかという話を、もっとまちなかで知ることができたら良いと思いました。永山は遠いというのもあって、もっとまちなかだと、学生さんとか高校生も、気軽に大学の研究内容を知ることができると思います。まちなかで研究発表の場を設けていただけたら良いというのが私の意見です。

【議 員】

特に、中心市街地活性化のためには、若い人の力、まちなかに集まる若い人の力が必要だと思っており、従前から何とか大学をまちなかに誘致したいと考えてきました。

可能性がある一つの選択肢として、将来的に新文化会館・文化センターが中心市街地にできる予定です。そこに旭川市立大学のサテライトキャンパスを作ってもらって、そこで、社会人教育やリカレント教育をやり、公開講座をこのウェルビーイングコンソーシアムが中心になり、全ての高等教育機関が一括して公開講座を行うことができる、そのようなシステムを是非作っていきたいと思っております。

【市 民】

平成10年頃、ベンチャービジネスが全国的にブームになり、旭川市でも市が音頭を取って創造的地場企業育成支援研究会ができました。

旭川信用金庫の会議室で3年間、起業家養成講座をまちなかでやりました。大学の先

生が司会で、卒業生でビジネスを立ち上げている人の苦労話を聞いたり、会計士さんや税理士さんにも、企業を立ち上げるときの技術的なことを話してもらったり、10講座ぐらいのものがありません。

永山の市立大学でやるのも大事ですが、まちなかで新産業創造センターや市役所のスペースを利用してできたら良いと思いました。

【市 民】

1 学年100人の学生をどうやって移動させるかというところも問題だと思っています。そういう場所は多分たくさんありますが、物理的な移動と移動時間をクリアしたいとは思っています。

優れた研究内容は、こういうところで特異的に話すということは十分あります。今の御意見もとてもだと思しますので、承ります。

【市 民】

多くの関係団体のお話を聞かせていただきました。旭川市立大学以外のところはもう既にこういうことをやっていますという話だったと思います。多分市立大学さんもこれまでやってきたことは当然あるわけですが、連携もやってきましたという話がありました。

今回、企業、大学、行政、金融機関の役割ということで意見交換会ということで、班代表の方の意見は聞きましたが、他の議員の皆さん方が、今回のテーマについて、どんな思いを持っているのかを伺いしたいです。

【議 員】

旭川家具が有名だということは言っています。名古屋工業大学を視察したときに、その土地の歴史があり、商業やものづくりは、200、300年という非常に長いスパンでやられているということを知りました。旭川はまだ歴史がものすごく浅いと思います。

産学官金でしっかり連携ができているかどうかは、疑問の部分があります。今回新しく地域創造学部が市立大学にできますが、これも同じだと思います。集まって話し合ったら新しい企業ができるのかというそんな話ではないと思います。

正に今、ラピダスが作られます。高校生は、みんなラピダスに行ってしまいます。旭川に戻ってくるのだろうか。早く旭川がそういう基盤を作らないと大変なことになりますよというのが、今私が持っている問題意識です。

【議 員】

私も産学官金って崇高で難しくイメージしづらいと思っていました。今回、経済産業省に視察行かせていただいて、少しいメージが変わった部分もありました。

ラピダスが一つできますが、旭川市に効果としてどのようなものがあるのかと考えたときに、その半導体を使ったり、AIを使って、産業クラスターを起こしてほしいというお話を聞いてきました。

旭川市で、今まで農業、医療など発展してきたものがありますので、そういうものを

産学官金という切り口からうまく創出していけないかと考えました。

今、高専や旭川市立大学がありますので、その辺も協力していただいて、今あるものを使いながら旭川に新しい産業を作っていけたらいいという視点で、産学官金というのはこれから必要になってくると今考えております。

【議 員】

今回のテーマを決めるときに、常任委員会、班としても一つ、人権擁護についてという、案もありました。

産学官金は専門的な方たちは分かるけれども、市民の方が聞くと難しいのではないかと心配しておりました。ただ、今日専門の方のそれぞれのお話を聞き、常任委員会で名古屋工業大学の視察に行き、若い方たちが起業家として、ベンチャーではなく、知恵を出し合って頑張ろうとしている、その1つ1つを指導されている大学があり、また、金融機関がたくさんの中企業を支援されている、そのような連携をされているということが、今の若い人にとってすごく羨ましいと思いました。

私が高校生のときは、買物公園がたまり場で、まちなかキャンパスみたいな、異業種が集まることはなかったもので、そういう意味では、今の人口減であっても、旭川市の若い方たち、かつ、今日お越しいただいた、それぞれの産学官金の関係の知的財産を旭川から出したいくないというために、市民力も大事ですし、行政力と民間力が力を合わせて、旭川をもっと楽しいまちにしていけたらいいと強く思いました。

一堂に集まって話し合いができるという、この場は必要だと感じております。

【議 員】

産学官金連携とお話しさせていただいたのですが、私自身としては中心市街地の活性化に重きを置いています。買物公園を中心に、商業や行政が様々あって、都市機能が集積している状況にありますが、公共交通の結節点があって、まちなかの顔をどう活性化していくかということのをこれまでも様々なイベントをやりながら、取り組んだ経過はあります。しかし今で十分なのかというと、市民の皆さんはそうではないと思っています。

そこで、サブタイトルの産学官金連携で、改めて考えてみようというところで、これまでの振り返りをするのも一つの方法というふうには受け止めています。

今回できる市立大学地域創造学部はAIとか、そういう新しい方向の学びです。名古屋工業大学に行ったときに、同じようにアントレプレナー教育というのをやっていました。これからの人材を作るということを述べられていますから、基礎的な力を付けて、更にアイデアとか発想力を付けて、新しい企業につながっているという話を聞いて、これまでになかった発想でまちづくりに発展するのではないかと期待もあります。

今回は、これまでの振り返りと市立大学の新しい活力ができることによって、新しい変化が旭川に起きるのか、皆さんと共有しながらいけばいいと思っております。

【議 員】

このテーマのとおり、産学官金を中心に、何とか今の旭川の買物公園通りやその中心市街地を活性化させる。皆さんの方からもアイデアがあるのか、ここに参席させていた

できました。

【議 員】

私は広聴広報の委員長としても関わっているのですが、今年度も従来の形式で意見交換会を開催する運びとなり、総務常任委員会では「産学官金連携」や「人権擁護」を、今後2年間にわたる活動の重要テーマとしていこうとなり、単に意見交換会のための題材とするのではなく、委員会の継続的な活動指針として市民の皆様から広くお話を伺い、そこでの知見を市政に反映させていく考えであります。

産学官連携に関しては、10年ほど前に地方創生が国の方針として示された際、連合組織の活動を通じてその重要性を強く認識いたしました。当時、旭川の地域活性化には産学官の強固な結びつきが不可欠であると考え、シンポジウムの開催などを通じて議論を深めてまいりました。

その後、まちなかキャンパスの活動に携わりましたが、当初は大学生や高校生が小中学生に教えるという仕組みがどのような成果を生むのか、不明確な部分もありました。しかし、実際に活動を目の当たりにすると、中心市街地のにぎわい創出に加え、次世代を担う子どもたちの郷土愛を育むすばらしい取組であると実感いたしました。道外からも旭川の試みが注目されており、食べマルシェなどのイベントと併せて、子どもたちが一日中滞在し続けたいような活気が生まれています。

このように、産学官の連携は着実に形を成してきております。私たち議員の役割は自らまちづくりを行うことではなく、市民の皆様の貴重な御意見を市政に反映させることにあります。本日は、今後のまちづくりの一助とするため、御意見を拝聴したいと考えております。

【市 民】

本日は関係団体の方々ばかりだと思うのですが、正直言って話が進み過ぎて難しいという印象を受けました。周りの人と話すと、「旭川デザイン都市って何？」という人がいたり、シニアですとか、ハンディキャップを持たれた方々もいらっしやると思うのですが、若い方々の取組はとても大切だと思いますが、そのような方々の住みやすいまちづくりとか、そういうことも企業なのか、大学なのか、行政なのか分かりませんが、取り組んでいただけたらいいと感じています。

自分自身も20年ぐらい京都に住んでいて、年に5、6回様々な都市に行きますが、すごく対応がいいです。旭川に住んでいると、何か寂しい感じ、残念な感じすることが多いです。でも学生さんが頑張っているなら、若い方だけではなく、様々な方に配慮したまちづくりをしてほしいと感じています。趣旨がずれるかもしれないですが、申し訳ないですが。

【議 員】

様々な町を見て、旭川と比べて残念だと思うこともあるとおっしゃいましたが、言えるようなことがあれば、どんなところなのか気になりましたが、いかがですか。

【市 民】

一言で言うと、人を迎え入れる、おもてなしというか、対応、接遇です。丁寧な言葉を使えと言っているのではなく、心が、自分がしてもらってうれしいことを相手にしてあげるみたいな、そういう気持ちがありません。否定しているわけでもありませんが、残念な対応だということが多い。自分の考えが正しいと思っているわけでもありませんが、もう少し、様々なところから来る人にも優しくてもいいと思います。

【議 員】

分かりました。私も感じます。そういったところを、予算を使うのではなくて、どう変えていけるのか。学校、大学の教育の中で、まちづくりについては、旭川の持っている体質みたいなものをどう変えていけるのかということテーマにして、やっていただけるといいと思いました。

【市 民】

産学官金の4要素に加え、平成26年や平成27年頃には「労」や、公認会計士、税理士、弁護士といった専門職を含める考え方もありました。当時の地域社会では十分に浸透しませんでした。これらは単に人を派遣するための枠組みではありません。

本来、こうした組織は手段であって目的ではないはずですが、行政が主導すると組織の存続自体が目的化する傾向にあります。その典型例が、中心市街地活性化におけるまちなかプラットフォームやエリアプラットフォームです。行政が主導権を握り事務局まで担う形態は全国的にも珍しく、これまでの手法は反省を含めた再検討が必要です。

旭川市では平成12年から25年間にわたり、中心市街地活性化計画を継続してきました。しかし、4分の1世紀が経過した現在、どの程度活性化したのかを冷静に評価すべきです。行政、議会、産学官金の関係者が一堂に会し、25年間の歩みを議論する場を設けることが、真の活性化につながります。

最後に、行政施策に対して発言機会のない市民の声に耳を傾ける仕組みづくりを提案します。札幌市で取り組まれた市民総会やミニ・パブリックスのように、ふだんは行政と距離のある市民が自由に、かつ対等に対話できる場が必要です。こうした試みに予算を投じ、新たな議論の場を創出することを期待します。

【議 員】

藤沢市では、一人一人を取り残さない、ハンディキャップのある方とか、社会の弱者の方々をどのようにサポートしていくのか、いかにより良い社会を作り出していくのかということについて、孤独をどのように防止するのかという行政課題に対して、行政と大学が一体化して取り組んでいます。

孤独というのは実は30代、40代の女性が多いそうです。そのような方々の承諾を得た上で、健康診断の際のデータ等の情報分析をして、傾向がある方には、地域社会に存在する様々なコミュニティを紹介するというシステムを開発する努力をされています。

防災に関しては、お年寄りなどがなかなか万が一の際、逃げづらいので、防災課に事前に予防するようなシステムを作るべきかという点について、藤沢市は大学と一体化し

て、センサー、ドローンの開発で、事前の水位というものを認識し、それに基づいた危険性が高まることを分析し、事前に避難を勧告するシステムを作っているそうです。

このように、産学官金というのは、決して、何か一般的抽象的な産業界を作り出すとかそういうことではなく、一人一人の福祉や幸せの目的のために存在しています。この点についてはしっかり、方向性を持って進めていきたいと考えています。

【市民】

買物公園を歩いて、楽しい通りにしなければならないと思います。

まちづくり方策として、買物公園のメイン通りに花を充実させ、駅を降りたらすばらしいと感じるような空間にすべきだと考えます。

清掃・水やりをしている店員の方を見かけました。このような姿勢を市民全体が持つようなものにしていきたいです。

市民全体で、例えば、花の管理などについてボランティアの組織などを作ってはいかがでしょうか。

旭川で感激したことは、昭和通りを車で走行中に、すばらしい照明（イルミネーションやシーメイト表示）が目に入ったことです。買物公園にも、旭川の個性を生かしたデザイン照明を設置すれば、すばらしいと感じるのではないのでしょうか。

買物公園は観光客などでにぎわっています。旭川の特産品であるお土産を買えるようなコーナーを検討すべきです。平和通りのフードテラスのような施設に、遠くから来ている人たちに見えるようにお土産を陳列するようなことをした方が良いでしょう。

2階にあるお土産コーナーは旭川の魅力が出せないと思います。1階の買物公園に面したところに様々な特産品を並べ、魅力を宣伝する取組をしなければならないと考えます。

私どものグループは、旭川の未来のまちづくりについて展示をしておりますが、提案の一つとして、買物公園に、ゆっくり走る自由に乗れる電動バス（例えば、幼稚園バス3台分程度の大きさ）を走らせてはいかがでしょうか。道交法などの問題があり、なかなか認められないとは思いますが、老人や子どもが交流できるようなものにしたいです。将来的には、駅前から7条緑道、常磐公園、市役所などを巡る周遊バスとすればすばらしいと思います。

【議員】

最後のバスの件につきましては、昨年度と今年度、実験的に定期自動車のような形で運行しております。これが本格的に稼働すると、平和通りから7条緑道の方へつながるものと考えております。

また、その前の段階の、花などの御提案については、回答を控えさせていただきます。

まとめ

遅くまで、意見交換会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

自由な参加が可能となるよう、オープンスペースでの初の試みで開催いたしました。が、至らない点もあったかと思えます。

改めて、金融連携に関わる様々なご意見を頂戴しましたが、大切に持ち帰って検討したいと考えます。

また、産学官金に関わらず、まちづくりや中心市街地活性化に対する様々な思いを頂戴しました。

産学官金の各々の役割を踏まえつつ、それらの連携とこれによる産業創造をどのように進めていくべきか、我々、しっかり胸に刻み、何とか実現できるよう努力してまいります。

得られた課題等

- ・産学官金の各々の役割を踏まえつつ、それらの連携とこれによる産業創造をどのように進めていくべきか
- ・特に、学の役割として、他都市との比較において、本市の長所、短所等を検討し、その結果を市民に情報提供すること
- ・大学の研究成果をまちなかで知ることができる場の創出
- ・起業家養成講座のまちなかでの実施
- ・産学官金連携を通じて、様々な背景を有する市民が、それぞれにとって優しいと感じられるまちづくり

当日写真



総務班

テーマごとの記録

《ナイトタイムエコノミーってなに
～旭川・夜の魅力の再発見～》
(経済建設班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時	令和7年11月26日(水) 午後5時30分～7時00分			
関係団体	なし			
出席議員名	代表	江川あや	受付	金谷美奈子
	司会・資料作成・勉強会	皆川ゆきたけ	受付	杉山允孝
	資料作成・勉強会・記録	駒木おさみ	誘導案内	高木ひろたか
	資料作成・勉強会・記録	いしかわまさき	誘導案内	能登谷 繁
	広報・記録	あべなお		
正副議長	議長	福居秀雄		
参加者数	29人			

意見交換の主な内容

【市民】

夜景として1番すばらしいのは動物園だと思います。

私が心配しているのは、人はどこに住んでいるのか、活動を消費するのはどこに集まっているのかということです。永山周辺には高校が3つあり、大学、映画館、ショッピングエリア、有名なラーメン村、駐車場などたくさんあります。

夜の動物園や新しい場所は必要ですが、活気は永山周辺にあると思っているので、限られた投資はそこにすべきです。買物公園のことは忘れてしまいたいという気持ちです。まちなかに駐車場がないのは問題で、行かなくてもいいと思います。永山は駐車場がたくさんあります。観光客もそこを分かっています。永山のラーメン村は毎日混んでいます。

消費者としては若い人が中心だと思います。永山には農業高校、永嶺高校、志峯高校、旭川市立大学といった教育施設がたくさんあります。私の意見としては、永山周辺に夜の活動の場も作るべきです。駅やスペースがありますので、屋台村やラーメン村のようなところを作れると思います。

【議員】

私も永山に住んでいまして、言われるとおり、永山から出なくてもいいぐらい、スーパーから何から全てあります。ラーメン村もこの間行きましたが、バスが何台も入ってきて、非常ににぎわっていました。

今回のテーマの趣旨は、夜の観光地ではないですが、旭川の中で夜の魅力をどのように作っていくかという部分でいくと、中心市街地だけではなく、永山も確かにスペースがあり、ラーメン村などの観光の場所もありますので、それをいかに活用して、夜も皆さんが寄っていただけるようなまちづくりになれるのかも考えていきたいです。

永山は昼間は人が来ますが、夜の時間帯は人がなかなか集まらないのも正直なところですので、集まれる場をどうやって作っていくかを考えていきたいと思います。

【議 員】

永山にも夜の魅力を開発する余地があることの他に、高校や大学があるので、ナイトタイムエコノミー活性化のキーワードは若者だと思いました。

夜の活動は、どうしても大人のイメージですが、私も皆さんも高校ぐらいから夜遊びし始めたと思います。その頃はお小遣いやアルバイト代をいただいていたので、後先考えずに結構なお金を使い、今考えれば、消費単価が結構高かったのかなと思います。

若者が集まりやすい場所に、夜の魅力を作り出すことも考えていかなければならないですし、若者は大事だと改めて思いました。

【市 民】

NPO法人代表をしている者です。

令和2年に駅前でアイスバーを1週間近くやりました。手応えは相当ありました。私たちは旭川市内を活性化させるために結成されてから十数年経っていますが、なかなか成果を出していません。アイスバーが今までやった最大の成果だったのですが、会場を作るときから、通行人の市民から様々、聞かれました。「何をやるのですか」「完成したら是非行きたい」という話もいただき、蓋を開けてみるとたくさんの人に来ていただきました。

旭川市内の夜をいかに活性化するかというのは喫緊の課題だと思います。今、買物公園は買物できない公園になっています。永山の話も出ましたが、観光客は中心部の駅周辺のホテルに泊まり、夜、飲食に出ます。OMO7さんがさんろくをガイドするツアーもやっており、もっとやっていく必要があります。受皿ですが、飲み屋や飲食店などはありません。

帯広市の屋台村が気になって先週行ってきました。すごかったです。帯広は人口的には旭川より少ないですが、周辺の人たちが集まってきています。若い人たちが相当飲食に来ています。たまたま隣になった人は他県から来た若いカップルでした。プロポーズしたとか、明るい話が十勝のまちで繰り広げられていました。それを見ると、やはり飲食は大事です。食や温泉とかで若い人が来やすい文化をいかに旭川市が発信していくかということは、1番の重要事項かと思っています。

帯広の屋台村を例に、地産地消を目標として、上川管内の食料品や物販も含めながら、インバウンド、国内外問わずPRする必要があると思います。

【議 員】

買物公園も奥の方にいくと寂しい感じもあります。商店街との連携なども非常に大事

になってきますし、例えば、夜のマルシェや食べ歩きイベントなどをやっていくのが大切かと思います。

【議 員】

私も視察で帯広に行ってきました。夜の内容ではありませんでしたが、まちの中の活気というところは、人が多く、集まっているのを実感してきました。

屋台村は全国で観光地としてにぎわっている一つのツールです。旭川でも、中心部を含めて、永山という話も出ましたが、どの場所がというより、多くの飲食が一堂に会し、観光客、市民、若い人、皆さんが来やすいような集まりやすいところがあると思います。1個1個の店舗ということだけではなく、屋台村のようなものが全国でかなりブームになってきていて、観光地としても有名になってきているという情報もありますので、貴重な御意見として承り、今後の市の活性化に向けて考えていきます。

【議 員】

文化やスポーツにも触れられる観光ができないかと考えています。

夜でもスポーツができるものがあれば良いと考えており、スポーツをした後、さんろく街に行ってお酒を飲むと格別に感じるのではないかと思います。宿泊客はほとんど中心部にいるかも知れませんが、市民も活用しますので、交通機関の課題もあると思っています。

また、文化としては旭川にも美術館や博物館などありますが、夜はなかなか楽しめないという課題があります。

先日、鳥取県の砂丘美術館に伺いましたが、夜も開館していました。ただ、そこから帰るのが大変でした。路線バスで帰ってくることができましたが、交通機関の課題があると感じました。旅行に行ったときには、都会であればジャズのライブを探して必ずどこかに行くようにしています。その場所が結構遠くても、電車や地下鉄を乗り継ぎ、目的があれば夜でも動けます。

文化やスポーツ観光を一体で魅力づくりを進めていきたいです。お金をかけなくても、今ある旭川の魅力でもやれることはたくさんありますし、スポーツだといろいろな工夫が必要になりますが、今後に生かしたまちづくりができればいいと思います。

【市 民】

旭川を1度出て帰ってきた者です。

昔は、買物公園に行って楽しんでから帰るとというのが、当たり前でした。今は、様々なものが各地に分散した弊害があると思っています。

学生時代、緑橋の緑道前にはとにかく様々なものがありました。なくなってしまったものをどうするべきかを旭川市として考える必要があると思います。例えば、旭川市はラーメンが強みだと思っていますので、ラーメンやお酒の特区を作り、お店を増やしてみるのはどうでしょうか。

【議 員】

昔は買物公園が中心でした。買物に行くといえば買物公園しかありませんでした。各地域でスーパーなどができてからは、だんだん衰えてしまいました。昔の買物公園には、様々な商売があり、布団屋や眼鏡屋など並んでいて、店舗の2階が住宅となっており、同級生もいましたので、よく遊びにも行きました。今の時代は少し寂しいと感じています。

永山のお祭りといえば屯田まつりです。5,000人規模の人が集まる大きなお祭りです。特に、旭川に若い人がこんなにたくさんいたのだとつくづく感じます。若者が集まってこないといけません。そのためにはどうしたら良いのかを考えていきたいと思います。

【議 員】

私の学生時代も学校帰りには、学生服を着たまま買物公園を歩いたりして、それだけで楽しかった時代がありました。

先日、視察で各地に行き、商店街を回って歩きましたが、シャッター街が非常に多い印象でした。ただ、全国的には成功している自治体もありますので、それらを参考にしながら、今後、旭川を良くしていければと思います。

【議 員】

私は旭川に足りていない、ピンク系の特区があればいいとたまに思ったりもします。私は道外出身者で、小さい頃はキャバクラとか、いわゆる風俗とかあるようなところで育ち、学生時代は隣の学校に通っていたので、放課後は歌舞伎町という生活を送っていました。

夜はものすごい時代で札束が飛び交うようなところもたくさん見てきました。歌舞伎町もそうですが、ススキノでできて旭川でどうしてそういった特区を作って人を集めることできないのかなと時々思うことがあります。そういう要素もナイトタイムエコノミーを活性化させる要素の一つであると考えていますので、ピンク系に限らず、特区というあり方も活性化の一つの要素として取り入れて考えていかなければいけないと改めて思いました。

【市 民】

買物公園で酒屋を営んでいる者です。

買物公園が寂しくなっているという声が上がってきていますが、意外と観光の方が利用されています。当店では20席ほどの立ち飲みも営んでいるのですが、金、土曜日になると市外、道外の方が70人ぐらい利用されています。当店が地域のハブスポットをコンセプトとしていますので、当店を利用された後、地域のお店を紹介し、なるべく人が流れるように心掛けています。

当店に来ている観光の方が地元の方と仲良くなって、そのままいつもの行きつけのお店に行きましょうという光景を見ていて、これからの買物公園はまだ未来があると感じます。地域間、店舗間でお客さんをおすすめのお店に紹介し合う仕組みが飲食店などでもできると、観光で来られた方の旭川がもっと魅力ある感じになると思います。

また、平和通りで商売をしておりますが、まちにち計画の夜市をもう少し簡単な申請

方法にして、もっと夜のイベントができるような仕組みを旭川市にお願いしたいです。

【議 員】

私も各地によく行っており、観光の方だけではなく、市民同士の交流というのでも生まれるのを感じています。このため、今お話のあったハブスポットが、まちなかだけに限らず、様々なところで出てきていますので、そこも踏まえてできるといいと思っています。

まちにち計画の夜市の部分を分かりやすくしてほしいとの要望がありましたが、正に今、そこを実証実験しているところだと思います。警察への申請の他、様々なところに対して申請をしなければいけないという部分が難しく、買物公園通りの課題の一つだと認識しています。そのため、分かりやすく簡潔にどこに申請をしたら良いのかを考えていきたいと思っています。

【市 民】

ナイトタイムエコノミーを行うに当たって、治安の悪化が懸念されますが、安心安全のためにこういった対策を考えているのかを具体的に教えていただければと思います。

【議 員】

確かにナイトタイムエコノミー、夜の経済活動ということで治安の部分は懸念される場所です。例えば、先ほど挙げられた、まちにち計画については、市の職員が広範にサポートする他、警察への届出もしっかりとして、治安の維持に努めるような努力もしていかなければなりません。夜は、特に女性の方あるいは若い方、お子様にとっては非常に危険な時間帯ということもありますので、配慮しながら、事業を構築していかなければならないと考えています。

【議 員】

今いただいた意見はとても大事なことだと思っています。慎重に進めていかないといけないことだと思えますし、安全が確保されてこそそのナイトタイムエコノミー、夜のにぎわいかと思えますので、引き続き、私たちも治安をしっかりと守れるようにどのような工夫が良いのかを検討しながら進めていきたいと思っています。

【市 民】

家の近くに民泊を始めた家があります。普通の住宅地です。先ほどの話にありました、特区を作って、住宅地ではないところを、民泊とか簡易宿泊所にしてほしいと思います。どこから民泊なのか、そもそも私には区別が付きません。

観光活動とか経済活動も大切なことですが、私たち旭川市民が安心して暮らせるまちの方がもっと大事だと思います。ナイトタイムで午後6時から午前6時に活動して宿泊されると、ちょうど私たちが静かに休む頃に車の出入りをするようになります。冬になると、富良野や美瑛などでスキーをした後に帰ってきて、除雪しないと駐車場に入れないうきは路上駐車をするようになります。そういったことまで、旭川市は考えているの

でしょうか。

もし、あなたの隣に民泊ができて、そういう問題が起きたらどうしますかという話です。民泊の影響で、自分が引っ越すことになるかも知れません。静かに暮らせると思ってそこに住宅を構え、暮らしている旭川市民は守られないのでしょうか。私はすごく不安に思っていますし、地域は高齢化社会で、みんなもどうしていいか分からなくてとても心配している現状です。

【議員】

意見というよりは本当に困り事の状態かと思います。

どこに相談をしたら良いのかという窓口もそうですし、安心安全の対策はやはり重要な視点だと思いますので、そこも踏まえて今後政策も進めていきながらだと思えます。

個別の相談事項にはなると思えますので、後ほど伺いたいと思えます。

【市民】

高校でダンスの顧問をしていた者です。今は定時制にいますので先ほどのピンク特区はやめてほしいと思います。そうではなくても、駅裏の話や神居古潭の話がしっかりと解決できていない状況ではやらないでほしいと思います。

若者や教育のお話がありました。私も永山の教員住宅ですので、屯田まつりはすごいと思っています。音楽大行進もすごいと思っています。旭川にはこういったイベントがあります。昨年はイベントをダンスもチアも含めて36回やっています。今回もイルミネーションの点灯式の日、旭川はれて屋台村の向かいのガラスのところでやりました。皆さんは恐らく何をしているかを知りません。周知と発信力が課題です。

このまちの弱点は、私たちはそれぞれ様々なことを様々な思いでやっていますが、お互いがそれを分かっています。これを何とかしなければいけないと思います。一応、報道依頼とかはありますが、全然動きません。才能のある方々、最近は旭川マップスという若い人たちの集まりも出てきましたが、やる気がある人たちはたくさんいます。この人たちを結集したらどんなすごいまちになるだろうと思います。つながっていきたいと思って日々過ごしています。周知と発信力の弱さ、是非ここを頑張ってください、一工夫、一歩、旭川やるねというようなプランを始めなければ、他の人たちと同じようなことをやっても変わらないと思います。

その上で年内に何をするか考えてほしいです。4月、5月の宿泊数が下がるとのことですので、3月までに何かすべきです。周知、発信力によって大きく変えられたらいいと思います。何か挑戦していただきたい、私も協力しますのでよろしくお願いします。

【議員】

私は定時制を卒業しました。買物公園通りが通学路でしたが、いつの時代も、まちづくりで若い人がまちを熱と力で作っていくものがあると思います。当時、夜の正しい遊び方を教えてくれる人が必ずいたような気がしました。その中には危険だなと思うことにも出くわすこともありましたが、そうやって大人になってきたと今振り返りながら思います。

先ほどのアイスバーは、旭川の地域資源を生かしたような映えスポットだと思います。今若い人たちは夜の光や明るいもの、新しいものを見たときに写真を撮ってインスタグラムに投稿する流れがあって、それが逆に観光客に旭川を宣伝する材料にもなっていると思います。発信する人たちの力をお借りするのも一つの手で、周知の一つなのかなと価値を感じています。

何でも新しいものというわけではないですが、発想の転換で民間の投資、声掛けの中で生まれてくる新しいコンテンツは大事かと思います。そして地域住民の方の騒音だとか車の入替え、これは夜の時間帯はどうしても治安のことが課題になってきます。安全対策は最優先です。その上で、夜、経済活動をされている方へのいわれなきバッシングもあります。そうした方々をしっかりと守りながら努めていくという行政の役割もあると感じています。

若い人だけが町おこしをするわけではありませんが、まず、若い人にその力を与えていくことも大人の役割かなとも感じています。いつまでに何をするのか、閑散期に何を起こしていくのか、長年の旭川の観光の課題です。イベントだけでは経済効果は生まれなかったということもあります。スケジュールをしっかりと見えるようにして、旭川市はこういった取組をしているという周知や発信の他、皆様の力をお借りする中で、ナイトタイムエコノミーは進んでいくと感じています。若者支援、安全対策をしっかりと進めてまいりたいと思います。

【市 民】

夜間の経済活動となると、どうしても観光客を集めたいとか、夜に何かイベントを打ち出したいという考えに偏りがちだと思いますが、まずその前に、まちに出るための手段として、夜、安全に歩けるまちづくりをしてほしいと思います。

住宅街の街灯がないエリアにあるバス停に人感センサーの付いたLEDライトを付けてほしいです。街灯があるだけで犯罪率が低下しますし、明るいというだけで人は安全に歩きやすくなると思います。ヨーロッパでも、街灯を付けたことで、犯罪率が3割から4割ほど低下し、人の動きが1割から2割ほどアップしたという効果が実際にエビデンスとしてあります。イベントを打ち出すのも大切ですが、そこに大きなお金をかけるよりも、まずは、バス停に一つライトを付けるという地道な活動からやってほしいと思います。治安の懸念を解消するためにも、子どもや若者、あとは高齢者が安心安全に夜のまちに出かけられるよう、明るいまちづくりをしていただけたらと思います。

【市 民】

やはり発信力が弱いと感じます。

何年か前までは旭川のさんろく街にも客引きが結構いました。最近は落ち着いてきて、まちも出やすくなっていますが、ナイトエコノミーをやるためには、客引きへの対策は引き続き必要だと思います。

また、公共交通機関について、昔は深夜バスで23時とか23時30分発の永山方面のバスもありました。バス会社も人が足りないなどの様々な理由で減便されているとは思いますが、交通の便は行きだけではなく、帰りもある程度しっかりとすると、お客さんも活動

できるのではないかと思います。タクシーや代行も捕まらないことも結構ありました。これから忘年会シーズンに入りますので、その辺も踏まえてやれば、多客期と閑散期もうまくやっていけるのではないのでしょうか。

【市 民】

旭川のスポーツショップで働いている者です。

スケート以外にも、例えば、雪山を使って簡単なスノーボードの練習ができるとか、キックバイクにスキーアタッチメントを付けて滑ることができるとか、そういった観光、体験施設が欲しいです。

他には、まちなかにスケートパークを作ってほしいです。スケートをしている人がよく買物公園にいます。アスファルトもいいのでやりやすいのは分かるのですが、危ないので、大きめの室内でできるスケートパークが旭川のまちなかに1個ぐらいはあってもいいのではないかと考えています。

【市 民】

旭川の夜の魅力については、観光資源などがたくさんあります。一つ例を挙げれば、銭湯は結構夜遅くまでやっているところがあります。

旭川はこういった観光資源というか、市民の人も利用できるような場所で夜遅くやっているところは、まだまだあると感じていますので、旭川の魅力をもっと掘り下げていけたらと思います。

【市 民】

宿泊業をやっている者です。3点ほどあります。

夜の動物園を短い期間でやっていますが、夏の期間だけでも延ばしてほしいです。人の問題など多くあるとは思いますが、夜の動物園は全国的に名前が知られていますし、夜バージョンというのは、かなり売りになるのではないかと考えています。

旭川市は夜に除雪をやっています。除雪は夜にぎやかで、迫力もあります。安全面の担保は必要になりますが、除雪の見学ツアーみたいにすると、今ある資源が新たな層の開発になるのではないかと思います。安全に見られる場所に限りませんが、この場所は見てもいいとか、この場所はフォトスポットですとかができれば非常にいいのではないかと思います。除雪は魅力的だと私は思っています。

最後は、中心市街地の買物公園の中通りや横の通りの部分です。一時的に特区を作って、例えば路上駐車を2時間程度してもいいという場所があれば、市民や観光客の方がもう少しまちに出るのではないかと思います。車の駐車場代を払ってまでまちに行きたくないという方も当然いるかと思えます。いくら以上買えばというサービス券はありますが、まちをぶらぶらする、買物しなくてもまちに行きたい方は一定数いると思えます。車を停めることに対するハードルが下がれば、人が来るのではないかと思います。実験的に特区を作ってやると非常に面白いと思えます。

【市 民】

さんろくで働いている者です。

安心してお客様に来てもらえる、若者が健全に育成できるまちでないといけないと思います。交番、派出所若しくは見回りの警察官の方に見ていただけると助かります。さんろくまつりのときに、特に小さなお子さんもいる中、お店に入らない人たちが外で瓶や吸い殻をどんどん捨てていました。ポイ捨てに関して罰則はあってもいいと思います。まちが汚いと割れ窓理論で汚くしていいと人が思いますし、治安が悪くなります。客引きについても、お客様とのトラブルや客引きの人に乱暴なことを言われたとかを聞きま

す。客引きは違法です。

さんろくにはスナックがたくさんあって、昭和レトロな町並みが残っており、観光資源として盛り上げていきたいです。仙台市の国分町、札幌市のススキノみたいにブランド化して、さんろくはすばらしいと売りたいと思います。例えば、さんろくフォトコンテストをするとか、ススキノだとニッカのおじさんの看板が象徴ですが、さんろくといえば、例えば男山さんの看板みたいなものがある、全国の楽しそうな夜のまちだというものに結びつけばいいかと思ひます。

雇用も大事だと考えており、就労支援として、病気で働きづらい人にも積極的に働いてもらおうと思ひています。病気があるとか少しの時間しか働けないとか、作業所などでの単純作業もいいのですが、夜の接客業にチャレンジしたいという若者を応援したくて働いてもらっています。しかし、駐車場や夜間の交通費などの問題があつて誰でもは働けない状況です。昔は遅い時間のバスがあつたと聞いていいなと思ひました。

友達がやっているサルサのダンスイベントがすごく盛り上がっています。大人も楽しめるし、イベントも盛り上がっていたのですが、誰も知らないと思ひるので周知でこういうのが知られたらいいなと思ひます。

ICTパークについて、昔は若者がゲームセンターに集まるという文化があつたのですが、今はなくなっているので、代わりにICTパークでゲームの大会など、若い人が集まる場所にして盛り上がる場所になればいいと思ひます。そこも駐車場の問題で友達は行かなかったと聞いています。ICTパークと聞いて、まず何の施設か思ひ浮かばないので、分かりやすく紹介してもらいたいです。

【市民】

ナイトタイムエコノミーですので、夜に経済を活性化させることはもちろん大事です。フランスやヨーロッパでは、町の人や若い人は、できるだけ夜は家族と一緒にいて、家族との時間を大切にしなさいという考え方も強いです。ナイトタイムエコノミーも程々に活性化していくことと生活のバランスを取っていくことが大事です。ただ、観光客は旭川に来たら、やはりナイトライフもナイトタイムも楽しみたいわけです。

まちが持っている良いところを探し、充実させてアピールします。こういうところが旭川にはあります。例えば神楽岡公園です。まちの中にこれだけのスペースを持った原生林が残っている緑の多いまちは、日本の中でもあまりないかと思ひます。ナイトライフでどうやって活用できるのかを一生懸命考えてやっていけばいいと思ひます。

夏も冬も観光客が結構来ています。東南アジアの人は雪が珍しいとか、ヨーロッパの人は雪がとてもいい雪だと評価しています。ナイトスキーをやるとまちの夜景が見えて

とてもきれいです。旭川の冬は非常に魅力的で旭川市としての強みがあります。

みんなでいいところを伸ばしてこのナイトタイムエコノミーの意味を程々に活発にしていけたらいいなと思います。

【議 員】

安心安全の部分や公共交通の課題について、これから一緒に考えながら発展させなければいけないと思います。スポーツでも、例えばスケートボードなど、今、プレーをされているような方たちがいる現状もこちらで受け止めてみないといけないと思います。

また、夜の動物園の課題、若者の課題など、本当に多くの御意見ありがとうございます。今後、しっかりと議論をして皆さんからいただいた御意見をどのようにまとめて、政策提言につなげていくかを考えていきます。

まとめ

市民の意見としては、夜の魅力づくりには永山周辺や中心市街地の特性を生かすとよいとの声が多く、屋台村やラーメン特区、若者が集まる拠点づくりを求める意見がありました。一方で、民泊等の増加や騒音、治安悪化への不安など安心安全に関する意見もあり、街灯や公共交通の充実などの基盤整備の必要性も意見も出されました。

既存資源として夜の動物園、除雪見学、銭湯、スケートや文化イベントの活用を提案する意見、発信力不足の改善や閑散期対策を急ぐべきとの指摘もありました。

議員からの意見としては、特定地域に限らず、若者を軸に夜の魅力を創出する必要性が示され、屋台村や特区の可能性、文化・スポーツと連動した観光振興、ハブ拠点形成など多角的な展開を検討する考えが示されて意見交換が行われました。同時に、治安対策や申請手続の簡素化、公共交通の課題解決など安全確保を前提に進める姿勢を共有し、市民の多様な提案を整理し、政策提言へつなげる意向が示されました。

得られた課題等

◆ 前提条件と基盤整備の必要性

1 治安・安心安全の確保

夜間の犯罪防止、客引き対策等、女性・子ども・高齢者が安心して外出できる環境整備が必要。

2 公共交通の確保

深夜バス減便、タクシー不足など帰宅手段の確保。行きだけでなく「帰り」の動線整備が必要である。

3 イベント実施の手続き簡素化

夜市等の申請の煩雑さの改善や、ワンストップ窓口が必要で、令和8年度の地域振興部の事業となっている。

◆ 重点課題としてのにぎわい創出の中核

4 若者を軸にした夜間集客戦略

若者が集まる拠点形成や考え方、挑戦機会の創出の必要性について。

5 エリア戦略の明確化

中心市街地・永山などの役割整理と差別化が必要だと考える。

- 6 屋台村・特区等の制度的検討
飲食集積モデル、実験的特区の可能性についての調査が必要。
- 7 中心市街地の空洞化対策
買物公園の奥エリア対策、回遊性向上についての経済的アプローチを考える。
- ◆ 中長期課題（持続的発展）について
- 8 文化・スポーツ資源の夜間活用
既存施設・地域資源の再編集を含めての考え方を示す。
- 9 情報発信力の強化
周知不足の改善、若者・民間との連携発信。
- 10 閑散期対策の具体化
春先等の宿泊減少期への集客施策について考える。

当日写真



テーマごとの記録

《ヒグマの脅威を含めた生態や 今後の対策等について》 (民生班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時	令和7年11月27日（木） 午後2時00分～4時00分				
関係団体	なし				
出席議員名	班員	代表	笠井まなみ	受付	品田ときえ
		司会・広報	植木だいすけ	受付	高見一典
		資料作成・勉強会	中野ひろゆき	記録	菅原範明
		受付	石川厚子	記録	松田卓也
	正副議長	議長	福居秀雄		
参加者数	24人				

意見交換の主な内容

【市民】

熊の出没情報をグラフで見ると、軒並み件数が増加しています。要因は幾つかあると思いますが、熊の生息域が開発や太陽光発電施設などによって奪われ、居場所をなくした熊が人里へ降りてきている可能性を考えます。令和6年に国が国立公園35か所の魅力向上として高級ホテルなどの誘致を計画していると聞きました。これによって、熊の出没件数が今以上に増えるのではないかと危惧しており、その点に関する見解をお聞かせください。

【議員】

特に言われているのは、森林伐採もありますが、個体数の増加です。かつては6,000～8,000頭と推測されていたのが、今では13,000頭、あるいは16,000頭近くまで増えていると推測されています。また、今年はドングリなど、山の餌が不作であることも影響していると聞いています。更に、サケの遡上が少なく、熊の餌になるものが不足している状況です。農業の高齢化や過疎化も進み、緩衝地帯が減少し、すみ分けが難しくなっているということも聞いています。国が高級ホテルを建てることについて、森林を伐採することで、熊の生息できる場所がより減っていくことへの危惧はございます。戦前に植林地へ送るために木材伐採があり、戦後に植林されたスギやマツなどの針葉樹が多く、熊の餌になる広葉樹林を増やすなど、共存できる環境や、一定の個体数を維持することが必要であると聞いております。森を守ることが、共存の第一歩であると考えます。

【議 員】

補足ですが、道の試算によると、北海道のヒグマの頭数は令和4年で11,500頭、前年で12,200頭と、減ったとは聞いていますが、体感としては逆に増えているという意見もあります。実際数はあくまで推計であるため、計り知れない部分があります。北海道は自然が広範囲に続いているため、熊の生態が大きく変わってきていると考えられます。行き過ぎた開発をすると、そういったことも起こってくるということを念頭に置かなければならないと感じました。

【市 民】

旭川市の公式ホームページの新着情報から、ヒグマの出没情報が消えたのはなぜでしょうか。情報が掲載されなくなった理由の説明と、市議会として掲載が必要か不要かの見解をいただきたいです。数年前は新着情報の最上部に表示されていたのですが、今年に入ってから載らなくなりました。「ひぐまっぷ」の情報は見えますが、市役所の新着情報に載らなくなった理由をお聞かせください。

【議 員】

重要な御指摘と受け止めさせていただきます。

新着情報がホームページ上から抜けている件について、現在確認する方法はありませんが、今後確認を進めていきたいと思えます。一方で、お話にあったとおり、「ひぐまっぷ」での情報掲載や、旭川市環境部による出沒状況のまとめがホームページ上でも公開されています。また、旭川市はSNSを使った情報発信に力を入れており、最近の末広地域での足跡発見の事例なども、市の公式X（旧Twitter）などでいち早く情報発信されています。もしかすると、そういったSNSに情報発信がシフトしている可能性もありますが、想像の域を出ないので、しっかりと確認させていただきます。

【議 員】

旭川市のホームページが今年度に入ってからリニューアルしたことに伴う可能性もあります。大変重大な御指摘だと認識しております。先日の末広の事例などの情報が全くないことを私も確認しましたが、ただいまの話のとおり、SNS等では発信しています。しかし、このような情報は、複数の手段を重ねてこそ市民に届くものだと思いますので、この点については速やかに確認し、改善を図っていきたいと考えております。

【市 民】

西神楽地域の南端にある就実地区で、わなの設置などを行っている者です。市民への周知に関連して、今年、地元の自治会長を務める中で、8月16日に民家のすぐ横の家庭菜園に熊が来た事案がありました。スイートコーンが被害を受け、更に仕掛けてあったアライグマのわなが、アライグマ2頭が入ったまま300メートルほど引きずられる被害がありました。当時、江丹別や東旭川でも出沒があり、環境部の方々も忙しかったようです。この事象を、私が自治会長として知ったのは翌日でした。警察やハンターは確認

に来たそうですが、私には一切連絡がなく、地元への注意喚起がなかったのです。

後から環境部に確認したところ、当番の人が失念していたという返答でした。今後どうするのかという返答もまだありません。私は「ひぐまっぷ」やSNSを常に見ていますが、高齢の方が多い地元では、それらを見ないため、隣人から聞くか回覧などで知るのが現状です。環境部の地元に対する周知徹底が、あまりにもずさんであると感じており、昔はきちんと連絡があったのに、今の体制になってから連絡がない状況です。この点について、何か思うところがあればお願いします。

【議 員】

私が今回のテーマを設定させていただきました。道内の近年の状況は非常に深刻です。今年7月には道南の福島町で新聞配達中の男性が熊に襲われ死亡する事案がありました。これは、私たちの日常の生活の中で起こった事案であり、非常に危機感を覚えています。野生動物からの被害を未然に防ぐ方法として、今おっしゃっていただいた情報提供が大きな一つの方策だと思います。一般住民は、鈴や熊スプレー、銃器などを携帯していないため、行政がいち早くその地域に出没情報を伝えることが、二次被害・三次被害を防ぐ最善の方法です。その肝腎な対応策が取られなかった実態について、非常に貴重な御意見として受け止めました。西神楽の就実地区の自治会長様からのお話として、しっかりと環境部に伝え、状況を確認し、二度とそうしたことがないよう対策を検討させたいと思います。

旭川市は、ホームページやSNSで発信すれば市の仕事が終わったと考えているのかも知ませんが、全市民にいち早く知らせるためには最新のツールを使いつつ、出没地域にいち早く情報を伝えるという取り組み方を考えていかなければなりません。現在のところ旭川市では人身事故は発生していませんが、札幌の状況を見ても都市型のヒグマによる人身事故は道内でも発生しているため、第二の札幌にならないよう、御意見をしっかりと受け止めさせていただきます。

【市 民】

私は西神楽の捕獲実績に全て関わっており、ふだんから環境部とは密に付き合っていたにもかかわらず、自治会長になったときに連絡がなかったことで、余計に憤りを感じました。私の携帯電話の番号も知っているのですから、「こういうことがありました」と電話一本いただければ、あとは私が自治会の会員に通達できます。今後は、気を引き締めて対応してもらいたいと思います。

【市 民】

視点がずれるかも知ませんが、熊の出没で平穏な生活が脅かされる点で、ハンターや処理の問題もあると思いますが、そもそもなぜ住宅地に熊が降りてきているのかという問題を含め、自治体だけで抱え込むのは負担が大きい気がしています。道や国との連携や支援はあるのでしょうか。その点について教えていただきたいです。

【議 員】

私どもの会派（日本共産党）は、毎年、北海道及び上川振興局に意見を提出させていただいていますが、その中で、ヒグマは旭川市内や上川管内に限定されない問題であるため、北海道として対策を取ってほしいという意見を提出しているところです。

【議 員】

現在、この熊の問題は国会でも議論されており、道議会でも審議されていると聞いています。今の話のとおり地域限定ではない問題で、対策には人材と物資が必要です。警察が所持している銃器は人を撃つことはできても熊は撃てず、ライフル銃が必要だそうです。国は大きな政策を作るところですが、警察は道の所管であるため、道がしっかりと対策を取ってもらわなければならないと考えております。

カナダなどでは、公務員で組織を作って対策をしていますが、ライフル銃を撃つには経験が必要で、訓練を積まなければなりません。山を歩くことも含め、しっかりした人材と、組織を作るための予算が必要です。市町村だけでなく、道や国がまず予算も下ろして対策を行うことが必要です。現在、議論は進んでいるはずですが。

【議 員】

正に国全体の問題になっていますので、国のしっかりとした対策が求められるところですが、現在進行形で進んでいる中で、どうしても後手後手になっているという印象は、御指摘のとおりだと思います。

【市 民】

平成29年から令和4年まで、市で熊対策を担当していた者です。

プライベートで狩猟免許を持ち、現在も土日を含めて、環境部時代に関わった農家さんのところを見回りしています。その中で、10月26日に高砂台でヒグマの足跡を発見し、通報しました。高砂温泉のすぐそばで、住宅も近く、現場には市、警察、委託事業者、猟友会の方々が来られました。その際、委託事業者の方が「市街地に近過ぎるため、具体的な対策、例えば熊が居着きづらくなるような対策が必要」と市の方に提言したのですが、市の方は「予算がないから何もできません」と現場で対応を拒絶していました。

これは予算の問題なので、一職員が拒絶できるものではないと思います。ということは、市の意思決定として予算を付ける気がないという認識でよろしいでしょうか。また、市長や市議会の皆さんは、この件についてどのような認識をお持ちなのか、お伺いしたいです。もし認識が異なるのであれば、これからどのように対応していただけるのか、お聞かせいただきたいです。

【議 員】

私の友人も市の委託を受けて活動しており、様々な話を聞いています。今回の話を聞いて、大変驚きました。もちろん担当者に全て責任があるわけではないと思いますが、「協力して市民のためにやっていることに対して、その意向を必ず市に届けて対応しますので、少し時間をください」といった対応の仕方があったはずですが。今回の対応は、猟友会の方々をはじめとする関係者への感謝が足りないと思います。彼らは仕事を休ん

でも出動しているのですから、緊急性を理解していれば、このような言葉は出ないはずです。我々議員としても、必ずそのことを伝え、皆さんに寄り添った対応をするよう話してまいります。大変申し訳ありません。

【議員】

10月26日のお話、当事者としてお聞かせいただき、ありがとうございました。この件について、市に通報があったことは私も承知しておりました。神居地域で出沒した情報として市民に伝わっていた案件だったと思いますが、実際は高砂台だったということで、情報いただき有り難かったです。

予算の考え方ですが、表向きの旭川市の説明は、ヒグマの出沒状況があり、農家の被害などになると所管は環境部ではないですが、電気柵の対応をするというものです。今日のための勉強会で環境部職員に確認した際も、そういった回答でした。しかし、10月26日の実態を踏まえると、本来であれば侵入防止のために電気柵などの対応がされて当然であり、説明と実際の行動が違っていることになります。貴重な御指摘をいただいたと思います。

予算については、前年度の傾向を見ながら一定の措置をしており、例えば、令和7年度は4頭の熊が捕獲され、出沒状況が63件（令和6年度は78件）という状況です。十分な予算措置はされているはずなので、なぜそういった対応がされたのか、後日確認したいと思います。私は人身被害を未然に防ぐべきだと思っておりますので、この予算の考え方を、今後行われる議会での質問で取り上げていきたいと考えております。

【市民】

神居古潭の農家さんも、今年の秋頃、予算を理由に対応を断られたと聞いています。

【議員】

この熊の出沒に関しましては、先ほども言っていましたが、人的被害が出る前に、市街地に近い蓮池公園などの境に、何らかの形で電気柵を設置するというお話を私は報告を受けていましたので、再度環境部に確認したいと思います。

【議員】

人身に関わる部分と予算でくくられて返されると、なかなか納得できない部分が多くあると思いますので、議員全員が同じ考えで受け止めたと思います。

【市民】

非常に貴重な意見を聞かせていただきました。私が幼い頃、毎年熊が出てきて、近所の人たちが一斗缶を鳴らして追い払っていたことが日常でした。昭和50年から昭和60年頃までは、雪のある季節に春熊駆除が行われ、熊の肉を食べていた記憶があります。

大事なものは、発言されている方々は日常的に熊と関わり、市民のためにボランティアでやってくださっていることです。私たちは身近にこのような方々がいることを知りませんでした。

「あさひばし」にはすばらしい写真が載ったりしていますが、地域で活躍してくださっている皆さんのことは紹介されていません。ここに行政の体質がうかがえると思います。人身云々で電気柵を作ればいい、予算を取った、というのは全く違います。今の熊は、人里に現れることを常態化している熊もいます。私たちの生息する地域が荒れているのです。川伝いにシカが出てきたり、キツネを見ても「かわいい」と言う人がいたり、自然に対する市民の意識がかなり低下しています。また、山里では不法投棄のゴミが、まちなかではゴミステーションが荒れ放題になっています。

これは熊対策だけでなく、自然と共生するまちづくりがまず必要です。そして、日頃協力してくれている方々を広く紹介し、市民の意識を醸成するような運動をすべきです。いざというとき、予算がなかったら視察の費用を熊対策に回すなど、議員の皆さんにもそれくらいの覚悟を持って取り組んでいただきたいと思います。今後は熊が多数出没します。動物愛護などと言っている場合ではなく、森林を守り、人口が減る中で、みんなで力を合わせていくことが必要です。是非議会の中で議論し、行政と一体となって、活躍している方々を次の「あさひばし」に必ず載せることを約束していただければと思います。

【議 員】

私は熊の生態についてよく分かっていないため、意見を控えていたのですが、2週間ほど前に知人から話を聞きました。熊の出没を防ぐため、草刈りや電気柵の設置、ハンターによる駆除が行われていますが、それでも熊が出てくるそうです。理由は個体数の増加と、弱い熊が縄張りからはみ出て住宅街に降りてくることです。また、親熊が子熊に餌場を教えるために連れてくるため、親だけでなく子熊も駆除しなければならない状況にあるとのことでした。ですから、基本的には増え過ぎた熊を駆除してくれないとどうしようもないと知人は話していました。ハンターの方々は非常に苦勞されていると思います。賃金や日当のことなどもあると思いますが、ハンターを増やしていく政策や仕組みが必要ではないでしょうか。国はそのような流れで進めているのでしょうか。

【市 民】

ハンターを増やす流れは、今、国がそのように進めており、各自治体でも狩猟免許取得や猟銃の費用に補助金を出すなどして、増えてはいます。しかし、多くの方の目的は趣味であり、それを鉄砲を持っているからといって「熊も対応してください」というのは、そもそもいびつなのではないかというのが私の見解です。今、「ガバメントハンター」という言葉が一人歩きしていますが、これは関係機関との調整や、現場での判断、予算の組み立てなど、各種能力が必要であり、単なる熊の殺し屋とは違います。私たちは熊を殺したくてハンターになっているわけではありませんので、その点は誤解なきようにお願いします。

【議 員】

また、一つ分からないことがあるのですが、熊を仕留めた後の処理は、どのような形で行われているのでしょうか。参考まで、熊の肉は美味しいのでしょうか。

【市 民】

熊の処理ですが、まずDNA鑑定などのために、大腿骨、雌であれば子宮、レバー、年齢を確かめるための歯などを検体として採取します。その後、獲れた肉などは、出動した猟友会や、わなを設置してくださった地域の方々など関係者の中で分け合うのが、旭川で現在行われていることです。食べることについては、個体によります。高齢の熊は硬くて臭いですが、若い熊は赤身肉の中で牛肉よりも美味しいと感じます。

【議 員】

箱わなは有効だと思いますが、今の設置個数は足りないような気がしないでもありません。もっと多い方がいいのでしょうか。

【市 民】

箱わなは、熊を殺す道具と思われているかも知ませんが、そうではなく、餌を入れて熊を呼び寄せる道具です。それは問題個体だけでなく、無実の熊も呼び寄せます。また、住宅の近くに置くと、近くに住んでいる方の生活を脅かす道具にもなりかねない諸刃の剣であり、多ければ良いというものではありません。私が関わったときで8基あったかと思いますが、有効に活用すれば8基で十分回せると思います。わなを運用するには資格や、運搬する車両、人手が必要であり、8基をフル稼働させるのはなかなか難しいことから、数は十分ですが、あとは運用次第だと考えています。

【議 員】

不法投棄のゴミや、川の近くの草刈りを含め、ゴミステーションをきれいにするという視点は非常に大事だと思います。以前は熊と共生できていた地域でも、観光客や新しく住んだ人たちによる餌付けや不法投棄によって、味を占めた問題熊が発生し、共生が難しくなっているという話を研修で聞きました。人が熊を寄せているのですから、一人一人の市民が考えていかなければならない視点だと思います。

家庭菜園など、人のところに行けば餌があると認識した熊が出没している状況であり、山に餌がないことも大きな要因ですが、子熊も連れてきてそういうことを覚えてしまったら、駆除するしかない状況になっています。旭川でも住宅街に熊が出没する状況ですので、市民一人一人が考えていかなければならない問題です。市民の方に熊の対策について問題提起していくことも良いと思います。

「あさひばし」の件は、取材から掲載までに予定が組まれていますので、来月出るのは難しいと思いますが、そういった御意見があったことは伝えていきたいと思っています。

【議 員】

「あさひばし」の原稿は確か3か月前でしたか。ただ、そういった御意見は、市民の方々に、現場で働く方々がどのようなことをしてくださっているのかを知っていただく上で、大変重要なことだと感じました。

【市 民】

神居の者です。私には熊に関する知見は全くなく、一般市民としての意見ですが、一般市民としては「どう気を付けるか」ということしかできないと思っています。蓮池公園の近くに住んでおり、出没情報があったときは小さな子どもがいるため心配になりました。ホームページやSNSの話がありましたが、LINEには情報が入ってきません。XやFacebookはタイミング良く見ていれば情報は分かりますが、見逃すことがあります。

やはり命に関わることですので、熊が危ないという情報は必要ですが、これだけの件数をLINEに載せると、熊のLINEばかりになってしまうため、情報の整理が必要だと思います。市民の命に関わることなので、プッシュ型で危機を伝える仕組みは何かあって良いと思います。ただ、あまりにも情報が多過ぎると、逆に危険度が分からなくなってくるという問題があります。足跡なのか、目撃なのか、食べ残しなのかなど、情報の内容や市街地からの距離などによって、アラートの段階が市民に分かるようになると、気を付け感が分かり、有り難いです。

【議 員】

反論になるかも知ませんが、私はどのような情報であっても出していくべきだと思っており、受け手の問題もあると思います。今の御意見は個人の認識見解だと思いますが、足跡やフンの情報も、受け手にとっては貴重な情報源になります。そういった情報を抑制することは、かえって市民の生活を脅かす可能性があります。

防災の観点も同じで、どんな小さな情報でもしっかりと市民に伝えていくという取組は、待ったなしだと思っております。一方で、プッシュ型というお話がありましたが、ICT機器の精度や機能の限界もありますので、どこまで広く市民に情報を届けていけるのか、常に追求していかなければならないと感じております。私個人としても、しっかり追及していきたいと考えております。

【市 民】

別の件ですが、LINEでチャットボットを調べたら、熊の状況が2年前の状況に飛ぶようになっていました。恐らく、2年前に多くの方が調べたため、AI的に反応が高くなっているのかも知ませんが、日付が違うので最初は戸惑いました。設定で、今年度の情報もあるかと思えます。細かい点ですが、

LINEからの旭川市のチャットボットです。「熊」と調べたら、「出没状況」が選択肢として出てきて、そこを押すと令和5年度（2023年度）のものが出てくると。ずっと下の方に行ったら、令和7年度というところがありました。

【議 員】

当時のチャットボットと今どきのチャットボットで相当違いが出ており、AIも旧式のものはまだ残っていて、そのアルゴリズムで導き出している可能性があると感じました。実際の市のホームページのAIチャットボットも、ろくな回答にならないという大きな問題もあります。その辺りは、旭川市がデジタル先進地を目指している中で遅れていると感じる点ですので、御指摘として承り、確認しておきたいと考えております。

【議 員】

これまで皆さんから貴重な御意見を多々いただきました。SNS等の情報発信については、ホームページに掲載されなくなったという御指摘もありましたが、情報内容が一緒であれば、情報発信の統一性を持っていくべきだと個人的に思っております。

私自身、この熊被害について、近年、新聞やテレビ報道で、全国的に出没件数や人的被害の報道が過去最高だと捉えています。国や道を含め、行政機関で対策費を検討しているかと思えます。

西神楽の方の、環境部や駐在所を含めての連携・連絡に関する御指摘の部分は、出没地域の連絡連携の必要性は本当に重要なことだと思っております。とにかく人的被害が出てからでは遅いです。熊は1日で10～20キロメートル移動すると聞いています。熊対策を担当し、猟友会に入ってきたハンターがいらっしゃるという御指摘がありましたが、本当にハンターの方々、猟友会の方々はボランティア活動が主体だと思っております。出動手当や、鉛弾から銅弾に変わる中で一発数千円する銃弾、燃料費など、命をかけて出動に当たっていることに対し、心から敬意を表します。

国や道の連携や支援に関する御意見もありましたが、全国的な出没件数、人的被害の増加を受け、国としても今後、対策費をきちんと付けていただきたい。市としても働きかけていきたいと思っております。農業被害については鳥獣被害対策費という名目がありますが、環境部においてヒグマ対策費がちゃんと位置づけられれば一番良いかと思えます。その辺の予算付けも可能かどうか分かりませんが、とにかく人的被害が出ないことを大前提に置いて考えていかなければならないと思っております。

【市 民】

私自身も、狩猟免許を持ち4年目で、先ほどの話にあった旭川市の補助金をいただき、狩猟免許を取得しました。熊対策は人対策という言葉があり、半分は人の方に責任がある事案も多いと聞いています。人的被害が起きた場合、関係者それぞれがやるせない思いをしてしまうことになると思いますので、市民の間に熊に対する意識が高まっている今、その人対策における、旭川市役所主催で、教育の場、セミナーなどを開催していただければ、意識だけでなく、安全にも寄与し、地域ぐるみでできる対策や、ゴミを捨てない、餌をあげないといった基本的な対策も徹底できると思えます。

NPO法人などで、ヒグマの専門家が各地にいらっしゃいますので、ガバメントハンターの成功例を学習するとか、そういった市民向けのセミナーを開くべきです。人を集めて行うだけでなく、YouTubeなどで発信できる内容もあると思いますので、そういった人対策もこれから必要になっていくのではないのでしょうか。

みんなで一緒に勉強していきましょうというスタンスで対策を進めていけば、より良くなっていくと思えます。

また、獣害対策は猟友会が中心となって活動していると思えますが、どうしてもこの社会の余裕に頼っている状況です。例えば、熊を仕留めた際、大きいものだと300キログラムを超え、血まみれでダニまみれで臭い、一人では動かせないものを、箱わなに入っている状態で、どう運んで解体し、どの車に積むかと考えたとき、5年、10年経って

獵友会の先輩方が少なくなってしまった場合に、この活動が維持できるのかどうかは疑問です。全て行政に頼るべきではないと思いますが、その先の方向性も考えておくべきではないでしょうか。

ガバメントハンターの成功例（占冠など）や、道南の福島町の事故の教訓を含めて、セミナーの開催は一つの手だと思います。

ちなみに、4年前の狩猟免許取得の補助金は、金額5、6万円だったと思います。費用の半額ぐらい、人数が4人ぐらいまでという補助予算の枠組みでやっていましたので、今年の予算は分かりませんが、それで十分なのかどうか、金額と人数が分かる方がいらっしゃいましたら、回答をいただきたいです。

【議 員】

私もこの熊対策を議会で取り上げて10年ほどになります。支援地域である東旭川などで聞けば、田んぼ1枚向こうに熊がいるのは日常茶飯事で、通報する気も起きないという話をよく聞きます。

市民の安心安全のために、過去の一般質問でもそういったセミナーの開催を訴えてきた経緯があります。全市的な取組には発展していませんが、東旭川の出没が多い地域などで、地域の会館を使って市の職員や専門家が行って、ヒグマの脅威や生態を学んで自分の身を守るという趣旨でセミナーを開催した経過はあります。一方で、時代が進んでまいりましたので、YouTubeでそういった動画配信をして、誰もがヒグマのことを知るチャンス、機会を作るといことは重要だと思いますので、御提案をいただいたと受け止めたいと思います。

【議 員】

狩猟免許補助金は経費の3分の1以内で上限25,000円ですね。養成講座というのではなく、狩猟免許を取得するためのセミナーのことですね。

【市 民】

セミナーというか、草刈りなど、一般的な言われている誰しもができるような対策、知識とともに、それを知る機会があれば良いのではないかと思います。

【議 員】

同じく、それを貴重な意見として、今後、生態を知ることが対策にもなりますので、市民一人一人ができることを具体的に提示することで、危険を少しでも減らしていくことができると思いますので、是非提言していきたいと思います。

【議 員】

市民向けセミナーの開催というのは大変前向きな提案だと受け止めました。市民もちろんなのですが、環境部の職員にとってもどうなのかと思います。先ほど、環境部でやると言っていて忘れて何の連絡もないという発言もありましたが、今年9月から緊急銃猟制度が導入されました。旭川もこれに基づいて、9月16日には緊急銃猟を想定した

ヒグマ対応訓練を神楽岡公園で行ったのですが、この訓練自体が実効性のあるものかどうか疑問です。熊が出てから公園内の市民を全員避難させてから銃猟ということだと、その間に熊が逃げてしまうだろうからです。

緊急銃猟の指示を出すのは市長ができますが、市長が不在の場合などは環境部長や課長が指示を出すことができます。果たして部長や課長に、そこまで判断する能力があるかという大変失礼かとは思いますが、疑問です。

ですから、市民に対してセミナーを開くことも大切ですが、まず環境部の職員がしっかり勉強してほしい、そういうことも含めて、行政の方に提案していきたいと思っています。

【議 員】

実際に環境部では、急激に熊の部分の業務量が増えてしまっていると聞いていますので、体制をしっかり整えていく、意識とマンパワーの両面で改善していかなければならないと感じました。

【市 民】

市民向けのセミナーということで、私も今まだ完全ボランティアですが、土日に東旭川などで毎年、地域の方々の要望に応える形で、坂東園長などをお呼びして、完全無償でヒグマについてのセミナーをやらせていただいています。もし必要であればお声がけいただければ、何かしら手配はできます。私だったらタダで使い放題なので、是非。

先ほど匿名の方から広域連携の部分、お話いただいていたのですが、その部分も含めて、市議会の皆さんが考える軸、短期、中期、長期の目線で見たいヒグマ対策の軸というものをお持ちになっているかどうか、お聞きしたいです。

【議 員】

先ほどの資料で説明させていただいたものと少しかぶる話になりますが、分かりやすく一言で言うと、場当たりの対応が市の対応としてはメインになっているかなと思います。恐らく、今の方も平成29年から令和4年まで携わっていただいているので、同じ思いがあるかも知れません。ヒグマが出没して危険個体であれば捕獲駆除、危険性があるなら電気柵を張って侵入抑制といった対応策になります。

ただ、近年の熊の動向を踏まえ、市街地への侵入抑制で、常設の電気柵を河川敷に張っているというのが、中期・長期的な視点での対策がようやく美瑛川の河川敷で始まったというのが現状かと思います。

そして、広域連携の部分については、野生動物の対策としては重要な課題であり、今現在は連携がされていません。これは北海道や国の話が出ましたが、あくまでも自治体に対する予算措置で、お金は出すけれども、対応は旭川市がやってくださいというのが分かりやすい表現だと思います。北海道と常に旭川市が連携して熊の生態調査をしているのかというと、一切やっていません。旭川市としても、旭川の圏域内にどれぐらいの熊が生息しているかという実態調査を一度もやっていません。これをやろうとすると、マンパワーと費用が非常にかかります。

雄熊は100キロメートル単位で、雌熊も数十キロメートル移動すると言われており、一晩で50キロメートルほど移動する可能性があります。旭川を軽く飛び越えて周辺地域になっている可能性がありますので、広域連携で近隣町との連携をしていくことが必要になりますが、そこはまだまだこれからの状況だと認識しております。

【議員】

短期、中期、長期というような形ではないのですけれども、当面としては、人身事故が起きないように対策を重ねつつ、長期的には国の制度が進んでいく部分、それから、道内には市の全域を電気柵で覆ったことによって熊が出没しなくなった事例もありますので、そういったことも一つの考えなのかなというところで、まだまだ私たちも議論が足りない部分があり、回答になっていない点については申し訳ございません。

【市民】

熊を目撃した場合には、どこに連絡すればいいのでしょうか。やはり110番が一番いいですか。

【議員】

110番すると、警察行政は連携が取れており、その情報が警察から旭川市に来るようになっていますし、旭川市に通報すると、旭川市から警察に当然連絡が行くという、そういった連携体制は整っております。

【市民】

ということは、警察ということになるのですか。

【議員】

旭川市も当直の方が電話を受けて、しっかり流れていくような仕組みにはなっているということですが、警察の方がより広域にしっかり伝わっていくかと思えます。

まとめ

本意見交換会では、近年急増するヒグマの出没に対し、市民の安全確保と行政の対応の在り方について多角的な議論が交わされた。

市民からは、生息域の変化や個体数増加に伴う人里への出没、特に市街地近接エリアでの脅威が指摘された。具体的には、市公式ホームページ等による情報発信の不足や、現場における地域住民への周知の遅れ、予算を理由とした対策の停滞など、現状の行政対応に対する厳しい批判と改善要望が相次いだ。

これに対し議員側は、情報伝達の統一性と迅速化、SNSを活用したプッシュ型情報の検討、および予算措置の適切な執行をチェックする姿勢を示した。また、専門知識を持つ市民からは、単なる駆除に留まらない「人対策」としての教育セミナーの必要性や、ボランティアに依存する狩猟体制の限界、広域連携による生態調査の重要性が提言された。

結論として、人身被害を未然に防ぐため、行政・議会・市民が連携し、ソフト・ハード両面から実効性のある対策を早急に構築していくことが確認された。

得られた課題等

- ・市のホームページ、新着情報やSNSでの出沒情報提供のあり方。
- ・連絡を要する人へ、出沒の連絡漏れ防止のための方策徹底。
- ・国や道、周辺自治体との連携を密にすること。
- ・電気柵設置などの対策方法を現場対応者を含めて共有すること。
- ・猟友会やボランティアで対応してくれている方への感謝。
- ・具体的な対策やハンター養成に関する市民向けセミナー。

当日写真



テーマごとの記録

《子育てしやすいまちづくり ～子育てに関わる負担軽減に向けて～》 (子育て文教班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時	令和7年11月28日（金） 午後2時00分～4時00分				
関係団体	なし				
出席議員名	班員	代表・広報	塩尻英明	勉強会・誘導案内	たけいし よういち
		司会	中村みなこ	誘導案内	えびな 安信
		受付・記録	横山啓一	受付	中村のりゆき
		誘導案内	沼崎雅之		
	正副議長	議長	福居秀雄		
参加者数	25人				

意見交換の主な内容

【市民】

今、6か月の男の子を育てています。鷹栖町のお母さん方が、生まれてすぐからいつも役場に連れて行ったら、お母さんを寝かせてくれる場所があると言っていました。旭川はお母さん寝られる場所はないの？と言われました。車でドライブしながらこちらもほとんど寝ていないので、非常に危ない運転になってしまいます。寝られるところがあったら有り難いと日々思っていました。w a k a ・ b a のイベントとかでも託児が付けいていて、その間、お母さんが、ヨガや意見交換をしましょうというのはあるのですが、寝ていいというイベントはないので、1時間でも10分でも目をつぶることが許される場所があったら有り難いと思っています。

【議員】

赤ちゃんは寝てもすぐ起きるし、大変だと思います。親御さんのレスパイト、少し休憩できるようなこともこれから重要になってくると思います。現行で鷹栖町のようにいつでも寝られるというところは多分ないのですが、産後ケアで1年間使える制度があります。これは母子保健法の改正で、今まだ5年ぐらいしか経っていない事業なのですが、訪問型とか、あるいは助産院とかに行ったりなど様々ありますので、産後ケア制度などは親御さんのレスパイトとしても活用いただけるのではないかと思います。是非御検討いただければと思います。

【市民】

なかなか予約が取れません。疲れて今すぐ助けてほしいというときには取れないし、7回しか使えず、毎回お金がかかります。予後が悪かったのですが、途中から産後ケアに切り替えておきますねと言われて、気づいたらそれが使われていて、退院後は、あと3回しか残っていないと言われてました。大事に使わなければならないと思っているのですが、その日眠たい限界が来ても、予約は取れません。

【議 員】

御意見に関しては、しっかりみんなで受け止めさせていただきたいと思います。6か月を過ぎて預けられるようになると、子ども誰でも通園制度というのも始まっております。今まで保育が必要とされる子どもが保育園や子ども園の対象であったのですが、誰でも使えるようになりますので、是非御活用していただいて、心と体を休めていただければ、役に立てるのではないかと思います。

【市 民】

子育て支援課の方で行っている子どもの居場所づくりの中で、プレーパーク事業と、中高生の居場所づくりを始めたのですが、資料の中に「子どもの居場所」というワードが含まれていません。子ども食堂は旭川市内では年々数が増えて、様々な地域で活動されている団体が多いと思うのですが、プレーパークは、もともと第2次世界大戦頃から東ヨーロッパの方で始まって、昭和50年に日本に入ってきた活動です。子ども食堂に数が抜かれて、旭川は私の団体のみが活動しています。

新規団体が増えないのも、市の方でノウハウを持っていないということと、参入しづらい環境があると思っています。

札幌は団体が円山とか月寒公園でやる場合、公園管理者と共催で活動していますので、団体として道具を持って管理するというではなく、各公園に道具置場があって、活動ごとに必要な道具を借りに行くという形でやっているのです。団体としての負担はすごく減っています。活動回数も増えますし、各地域それぞれで活動している団体があるので、遠くの公園に行かなくても、環境が札幌は備わっています。

旭川にないのはどうしてだろうと思っています。プレーパークだけではなく子育てに関する、市民団体が自由に使えるような箱を、市の方で準備していただきたいと思えます。鍵付けであることが理想ですが、週末や平日に備品を置いておける場所だったり、プレーパークに関しては公園と共催になるような、新しい団体が入りやすい環境を、市の方で作ってほしいと思います。

【議 員】

いつもC o C o D e や常磐公園で活動されているのを拝見しています。我々の常任委員会で、先日視察に行ってきた場所に「武蔵野プレイス」というところがあって、そこは図書館機能もあるのですが、市民団体が利用できる施設でもありました。その中の一つの区画に、市民団体が使えるロッカーがあったり、活動の様子をファイルで綴じておいたりできる棚があったりして、すごく良いと思いました。

市民文化会館が市役所の隣に建て替えることまでは決定しているようで、我々もその

視察を通しながら、文化会館も市民が使える施設になれば、そういった機能を備えるのも良いと思います。いつも活動されている常磐公園だとか、C o C o D eとかもありますが、こういった場所にこういったものが必要なのかというところは、これから少し考えていきながら前向きに検討をしていければ良いと思っています。

【市 民】

常磐公園の川のおもしろ館が今、資材庫としてしか使われていませんし、市役所の支所など、市で管理しているものを改めてもう少し使い方を考えたりだとか、中心部以外で活動している団体が中心部まで物を取りに来なくてもいいような環境というのを作るのが良いと思っています。既存の施設を有効活用しながら、市民活動団体が子どものためにやっている活動の幅を広げられるように、市の方でも考えていただけると有り難いと思います。

【議 員】

昨年、個人視察で目黒区のプレーパークに行ってみりました。就学後の子どもたちの話ですが、プレーパークの中心になった場所は大きめの公園で、住宅地の真ん中にあるので、放課後子どもたちが集まってくる。行政の方から指導員2人配置をして、小屋があって、絵を描く道具やゲームの道具などもそろっていて、指導員の指導のもとに子どもたちが、それぞれ遊んでいる。何とか旭川でも実現できたらいいと思いました。

今旭川の方では、そういった場所もなかなか決められないし、行政の側でそういった人員もなかなか配置できない状況ですが、子どもたちは学校が終わったら大体、放課後児童クラブに行くことが多いようです。自由な遊びの中から学ぶことというのは、大事にしていかなければならないと私も思っています。

【議 員】

旭川市の方針としては、市の所有している施設の平米数、面積を削っていくということを言っていますが、学校もだんだん生徒数も減り、空き教室が増えていく中で、各地域に学校施設があるので、施設はうまく活用できたら、先ほどの悩みを解決できる可能性はあると感じています。

第3の居場所に関することが全くなかったというのはおっしゃるとおりで、第3の居場所があって、子どもが集まる場所があって、そこで滞在できる場所があれば、それだけ保護者の方も子どもの手を離すことができ、休める時間も増えますので、負担軽減の一つだと思います。第3の居場所、サードプレイスのつくり方とその中身というのも、市にはしっかり対応してもらおうよう訴えていかなければならないと感じています。

【市 民】

指導員の話がありましたが、プレーパークの場合、指導員ではなくてプレーリーダーという保育でも教育でもない専門分野があり、札幌もプレーリーダーという形で市長の認定を受けた専門職のスタッフを必ず2名配置しないと開催できないという条件付きでやっています。遊びに来る保護者や地域の人に対して、安全で自由な場所だという保証

を付けるためにも、旭川市も子どもの居場所としてのプレーパークではなくて、プレーパークとしての仕組みをしっかりと作っていくこと、そして専門職の育成というの、進めていただければと思っています。

【市 民】

子育てをする親御さんの悩みや不安を聞ける窓口として「サポートLINE」の設定を要望しております。子育てガイドの中に、おやこ支援課によるサポートもあったのですが、もっと気軽に、今この瞬間助けてほしいと思ったときに、すぐ返事が返ってくるような気軽なものがあればいいと思っています。

LINEの返信には、行政から人を派遣するのではなくて、潜在保育士さんにやってもらうことで、より深い理解も図られ、潜在保育士さんの社会参加を促すことにもなると思うので、そのような仕組みづくりをしてほしいと思っています。

3人目の子どもを産んだときに、精神的に病んで自分でどうしたらいいかわからない、子どもをかわいく思わない、どう接していいかわからないという悩みを目の前で聞いていたことがありました。そういう思いを抱えている親御さんはきっとたくさんいると思うので、お母さん、お父さん問わず、また、シングル家庭とか貧困家庭とかそういうことを全部取り除いて、普通の親御さんが普通に不満とか不安とか、助けてほしいというSOSを出せる場所を作してほしいと思いました。

【議 員】

今、旭川市とか全国の自治体でも母子保健と児童福祉の部分を統合して子ども家庭センターという総合的な窓口を作っていて、旭川市でも電話相談、メール相談を受けているのですが、今のお話だと、もっと気軽に敷居を低く、LINEとかでということですね。市でも、例えば女性活躍推進部というところで女性の働き方とか様々な悩みをLINE相談で受けるという事業をやっているのですが、技術的にはできるのではないのかと思います。あとはマンパワーと予算だと思うのですが、そういった仕組みを子育てにもというお話は貴重な御提案として受け止めさせていただきたいと思います。

【議 員】

相談窓口自体は結構たくさんあります。でも、どこに連絡したらいいのだろうとかいうのが、市役所の大きな問題だと思います。子育て関係、母親父親の悩み事の相談窓口だけでなく、生活に困っているとか様々な相談窓口が多岐にわたって増えてしまっている状態なので、今この瞬間助けてほしいという声が届きづらくなっています。

夜間やっていないなどの問題もあります。市は機構改革で部署を統合したり、まとめて少なくしたりするのですが、その先にそういった窓口とかも整理して、本当に困っている人たちに分かりやすい窓口を設置してもらえるようにしていかなければいけないと思います。

【市 民】

夜はどこもやっていないという時間で、小児科、夜間小児科とかに電話するのも申し

訳ないというときで、あと#8000番も話し中で全然つながりません。夜間、そういう窓口があったら助かると思いました。

出産前、w a k a ・ b a で、プレパパママ教室というのが1回だけあったのですが、コロナ禍以降ないと聞ききました。YouTubeで調べることはできるのですが、実際様々な情報があって、何を信じていいかわからないというぐらいたくさんあるので、特に男性育休が始まったので、パパ教室をもっとしっかりやってほしいなと思いました。

YouTubeを見ていたら、意見が分かれています。もく浴のときはこう、着替えのときはこうとか、ばらばらになっていくので、市の専門の人がこれから育休を取るパパさんを育てる制度、1か月ぐらいしっかり教えてくれる教室があったらいいと思いました。

【議 員】

子育てガイド43ページに「もしものときは」というページがありますが、これは多分お子さんが病気になったときとか、けがをしたときとかということの対応は様々あるけれども、育てていただいているお母さん、お父さんが悩んでいるときに、どこにというのが具体的にありません。そういうことに即応してもらうような体制が必要だと、お話を聞いて思いましたので、子育て支援部になると思いますが、どういうことが可能なのか、議員としても議論をしながら、何かやっていきたいと思いました。

【議 員】

子育てガイドを読ませてもらったのですが、まずこれを読んで分かりづらい、どこに何が書いているかわからない、と思いました。困っているときにどこに連絡していいのかというのが、表紙にあってもいいと言ったのですが、今日のテーマの「子育てに関わる負担軽減に向けて」というと、子どもに目が行きがちです。負担軽減というのは決して子どもだけではなくて、母親や父親に対してだとか、もっと広い目でどんな負担軽減があるのかという、根本的なものを考えた上で、どこでそういう支援ができるのかということを考え直す必要があると思いました。子どもを育てるためのお金を与えるとか、支援の策を作るというだけではなくて、育てている親を精神的にもどう支えていくのか、時間的にもどう支えていくのかという辺りを具体化していかなければならないと思いました。

【議 員】

先ほど夜間のときの悩み相談の場所がないというお話がありましたが、緊急事態でSOSを発信できることが難しいですし、市役所は夜間やっていませんので、夜間の診療、病院関係だとかで、一時的に相談を受けるような仕組みは作れないか検討する余地があると思います。24時間、対応できる仕組みができれば安心して子育てができるようなまちになると思います。

育休、パパの学習というところをもう少しやったらいいという話もありましたが、今、市職員も育休取得者がかなり増えてきています。佐賀県など、男性職員が100%育休を取っているという自治体もあるのですが、旭川も平均より少し良いぐらいの感じのようです。お父さんとしての子育てに対する意識改革をどう図っていくかというところで、

市による発信というのは大事だと思います。意識改革を自治体でも民間企業でも共有できるようなマニュアル的なものも、市役所が中心になって考え、各企業にもお伝えしていける仕組みもできたらいいと思いましたので、今の御意見を参考に、今後検討させていただきたいと思います。

【議 員】

子育ての悩みは、時間に限らず出てまいります。本日の意見交換会を開催する前の勉強会でも、子育てに関する悩みはどこに相談したらいいのか、窓口はないのかという意見が何人かの議員からも出ました。旭川市では、子ども家庭センターがあって、午後5時15分まではおやこ応援課か子ども総合相談センターで受け付けるということでした。しかし、これでは市民は分からないから、窓口を一本作るべきではという話は、この勉強会のときに伝えていきます。

こども家庭庁に「24時間子どもSOSダイヤル」というものがあります。いじめも含めて子どものSOS全般について、子どもや保護者などが、24時間いつでも相談できる、市ではなく都道府県又は指定都市教育委員会によって運営されているダイヤルがあるようです。今のところ行政の受け手としては、こちらで相談を受けられると思います。

【市 民】

そこも全然つながりませんでした。ずっと話し中なのです。LINEとか文字の方が、子どもがようやく寝付いたところだったりしたら声を出さずに済みますので文字の方が助かると思います。

【議 員】

議会の中でも質問がありますが、産前産後ヘルパー事業とか、相談窓口とか、やってくれて有り難いのだけれど、事足りないということがたくさんあります。電話がつながらないというのもその一つです。

結局、現場で何が起きているのか、どうしなければならないのかと困ってしまうのが市民の方々に、制度を作ったから大丈夫という市になっています。今回、この意見交換会后、委員会として重点的にやってもらうものを数個選んで、まずは議論です。財源的にすぐにはできないものはありますが、少しずつ段階的に拡充してもらうような動きはしていかなければいけないと思います。

【市 民】

子育ての相談窓口ということで、昔の家庭は子どもを持つ親が他の母親などに対して助言し、育て方を教えながら覚えて子育てをして、代々子育ての仕方が受け継がれていくものでした。でも今は核家族だったり、地域の人とのつながりも希薄な部分もあると感じました。現実的ではないのですが、各地域で地区ごとに相談窓口のようなものがあればいいと思いました。

【議 員】

地区ごとに窓口という方法も、安心感につながり、やり取りがスムーズにできる場面も出てくるかも知れません。

【議 員】

私の妻は3人の子どもを、友人と助け合いながら、近所の方も面倒を見てくれるという中で育てることができたのだと思います。そんなつながりが昔はありましたから、それに助けられて、私は家を顧みずに外で部活をやっていたのです。ただ、現代社会は、そういったことがなかなか難しい時代になってきています。ストレスを解決する策をきめ細かく作っていかねば、昔のようなつながりをもう1回作ろうと言ってもなかなかできないので、行政の方で電話がつながらないとか、そういったことについては対応を考えていく必要がある時代だと思います。

【議 員】

家庭であるとか地域であるとかで果たしていた子どもを面倒見たりする保育などの機能が、核家族化などで弱くなってきています。介護も一緒なのですが、介護の社会化ということで、家庭の仕事であったものを、社会全体で見なければいけないということで、平成12年に介護保険制度ができました。子育てに関しても20年遅いと思います。平成元年から平成2年ぐらいに出生率がどんと下がり「1.57ショック」と言われているときがあったのですが、そのときからきちんと手を打って、子育ても社会全体でやっていく方向性にしていれば、今、もっと充実していたのではないかなと思っているところです。

失われた家庭とか地域の機能を取り戻そうというのではなく、介護と同じように子どもを社会全体で見えていくようにしていかなければならないということで、令和5年に子ども家庭庁も発足しましたが、問題意識としてはおっしゃってくださったとおりに思います。後ればせながらようやくその方向になってきているので、国も様々やっていますし、市としてもしっかり進めていかなければならないなと認識しています。

【議 員】

「子ども110番」というプレートがかかっている個人のお宅があるのを目にしたことがあるかと思います。小・中学校の校区で子どもに何か起きたときに「助けて」と言いに行ける場所と位置づけて協力をしてもらっています。大人もどこか駆け込める場所があればいいのだらうと思います。

税金を使って行政がやるのがいいのか、地域に頼った方がいいのか、何か身近なところに「困っている」と言える場所がないのが悩みなら、作った方がいいと思います。教員住宅で子育てをしていた頃、同世代の教員同士が「子どもを少し見ていて」と頼むようなことは随分ありました。何人もの子どもを親代わりに見ていた経験もあります。そういうことが何らかの形でできないかと思います。

民生委員など、特定の誰かにしてしまうとその人の負担が大きくなります。「そんなの無理」となりますが、あそこに行けば何か教えてくれるかもしれない、頼れるかもしれないというようなことができれば、と思いました。

【市 民】

今のお話を聞いて、窓口が分かりにくいから新たな窓口を作るという話ではないと思います。私も知らない子育て支援の政策があったり、ガイドにも詳しく載っているのに、使い勝手が悪いとかそれを知っている人が少なかったりというところの情報発信とか案内の整理というのは、私も教育現場にいたときには、新たなものを作って、結局肥大化して分かりにくいという状況がありました。

そこにうまく予算を投じて、「くらしのアプリ」のようなところで情報を管理できる仕組みを作ったり、電話は人が受け取ると人員が必要になるということになるので、音声サービスとかそういったもので、本当に100本電話をしたら100本受け付けてもらえるような仕組みを作っていけばいいのかなと思います。

教育に対する予算というのはずっとこの何年間か課題です。高校現場にいたので、高校教育に関わる国の施策の部分なども、年々予算が減らされていったり学校で使えるお金が少なくなったりというのも見てきていたので、予算繰りの部分とか、せつかくあるものを有効に使えるような仕組みとして発展していけばいいと思いました。

【議 員】

新たな窓口を作って人員を配置するというのはナンセンスだというのはおっしゃっておりです。総合窓口は旭川の子ども総合相談センター形式で連携しながら、なかなか難しいというところはあると思います。

SNS等で発信するのは今の親御さんたちは対応できるかもしれないけれど、情報共有というのは難しいです。広報紙の紙媒体とSNS、地上波等々のテレビ番組となると、間口が広がってしまうので、市役所の中でも「子ども・子育ての総合支援」というリンクを作るだけではなく、困っている親御さんたちがたどり着けるようなポータルサイト、「このページだけ見て」を構築しないと、一朝一夕には進んでいかないと感じます。

高校生の悩みは多岐にわたりますが、ポータルは学校の先生だったりします。未就学児童を育てておられる方々の窓口は、喫緊の夜中に「ここを見て」というところを、そこにリーチさせる作業まではしっかりやらなければいけないし、コンテンツを充実させなければいけないというのは、課題なのだろうと思います。

子育てガイドの33、34ページに地域子育て支援センターの説明があります。10か所の地域に分けて、高齢の方々との触れ合い、ママ友も作るというのは子育てサロン、その説明が地図とともに載っておりますので、是非御覧になってみてください。

決定版のトータル24時間ポータルサイトというのは絶対に必要なのだと思います。先ほどのこども家庭庁所管24時間フリーダイヤルが全然つながらないということですが、つながるように頑張りたいと思います。

【市 民】

「子育てガイド」28ページに奨学金とか給付金の一覧表が載っていると思うのですが、どういった趣旨で支給されているのか疑問なのです。また、若者の旭川市外への流出が止まらないと聞きます。高校までは分かりますが大学に給付金が出ているということで、旭川で就職するとかそういう契約が伴っているのかとか、卒業後の就職先なども把握さ

れているのかというのが少し疑問です。先ほどからお話を聞かせていただいていると、やはり高校卒業後も大切ですが、それ以前の親御さんへのサポートなどが十分に行われているのなら分かるのですが、その辺がどうなのでしょう。

【議 員】

旭川市の奨学金制度は、平成20年代中頃までは公立高校で5万円、大学等で20万円程度と少額でした。しかし、入学金の工面が困難な家庭を支援するため、現在は50万円まで増額されています。

若者の流出抑制策としては「若者地元定着奨学金返済応援制度」を運用しています。これは市が最大10万円を補助する仕組みですが、新たに始まった企業連携型制度を併用すると、企業側も最大10万円を負担します。例えば年間30万円の返済が必要な場合、市と企業の支援により本人の負担は10万円で済みます。この制度は開始から2年あまりで高く評価されており、東京圏などへ転出した若者が旭川へ戻るきっかけとなっています。

また、令和5年からは返済不要の「給付型奨学金」も新設されました。世帯収入や学業成績（評定平均4.3以上）の要件はありますが、最大で年間50万円を4年間受給できます。

更に支援を拡充する議論も進んでおり、市と企業の負担を組み合わせることで、本人の返済額を実質ゼロにすることも可能です。市ではこうした多様な支援を通じ、若者の地元定着を図っています。

【市 民】

市立病院などでは、医師がアメリカに留学するお金も支援するけれど、そのまま旭川に帰ってこないでアメリカにとどまっているという例も聞きました。給付自体を疑問に思っていないですが、せつかくするのであれば旭川に何か役に立つような方法、仕組みがあった上での給付なのか、それが疑問だったので質問させていただきました。

【議 員】

将来的に帰ってくることを担保するようにはなっていないと思うのですが、例えば旭川医大などであれば、入学のときに地域枠というのがあり、この地域で働くという枠で合格できるというふうにあるのですが、市の税金を使って今言ったような形で応援して「後で戻ってきてくださいね」という、そういう仕組みまでは担保されていないとは思っています。ただ、旭川の人材育成という意味では大きくプラスの影響を与えているとは思いますが。

【市 民】

今お話を聞いていると、出産直後の親御さんなどのサポートなどがまだ十分ではないような感じがしました。財源が豊富にあるわけではないと思いますが、高校に上がるまでの手厚いサポートにも気にかけていただけたらと思った次第です。

【議 員】

高校生までの支援というところでいうと、3歳未満児の保育所の負担がかなり重く、3歳から5歳までの保育料は所得制限もなく無償化され、3歳未満児も非課税世帯の方は無償ですが、課税世帯の方については所得に応じてお支払いいただくことになっているので、この負担をゼロにできないか、また、第2子からゼロにできないかなど、旭川市議会としても議論が活発に行われているということはお伝えしておきます。

【市 民】

小学3年生と1年生の子を持つ父親ですが、精神的な負担の軽減のお話をさせていただきます。昨今、教職員の盗撮の問題が話題になっていて、千歳市の先生も逮捕されたと思います。旭川市の条例で「安全で安心なまちづくり条例」があると思うのですが、子どもたちの人権を守るためにも、今後の旭川市としての取組をどのように考えているのかというのを聞かせてください。

【議 員】

盗撮は、今は女の子だけではなく男の子も対象になります。私も関係部局ともやり取りしたこともあります。旭川市で盗撮に対して取組をするという計画はありません。私も課題だと感じていて、先日の常任委員会で質問もありました。

私が子どもの頃、教わった学校でも盗撮関係で捕まっていなくなってしまった先生がいます。子どもながらにすごくショックだったという記憶があります。学校の先生がたくさんいらしたら、そういうことが全くないというのは言い切れません。全部の学校を調査する予算は難しいかもしれないですが、スモールスタートで盗聴器や盗撮のカメラがないか調査してみることによって、それによって気を付けることができると思うのです。私は是非そういったことを、市でやっていくように働きかけていきたいと思っています。

【議 員】

国の方で再犯防止の取組というのはかなり強まってきております。「わいせつ教員対策新法」といって、3年ぐらい前に議員立法でできました。児童生徒へのわいせつ行為で免許取消しになった先生でも一定の年数後に再度免許交付されたのが、今度は原則として交付しませんというように変わって、一度教壇から降ろされた先生が、戻れないようにする仕組みです。

「日本版DBS法」もあります。子どもに対するわいせつ行為で有罪判決を受けた方が、関係する職種に付けないようにする、就職時に子どもに対するわいせつ行為の前科がないということを証明しなければならないという法律が来年から施行されます。旭川市においても具体的にどのように対応していくかというのは、多分年内か年明けぐらいにこども家庭庁から様々要綱などが来ると思いますので、過ちを犯してしまった人をシャットアウトするようなシステムというのは着実に進歩してきております。

ただ、初犯を防げません。今後大きな課題です。学校の先生というと、きちんとした人というイメージがありましたけれども、教育委員会の採用のときに気を付けていかなければならない事案であると思っています。

【市 民】

先日、駅前の商業施設で、盗撮で逮捕された方が出ていますが、身近にもそういう犯罪が迫ってきていると思います。公園や図書館など、親の手がない状態で子どもたちだけで行けるのですが、公共の施設のお手洗いなどでもそういうカメラがあるかもしれないので、「デジタルタトゥー」というか、旭川市としてこういう対策をしていますというようなクリーンなイメージを市民に訴えることができれば、より子育てのしやすいまちづくりになるのかなと思います。どうお考えですか。

【議 員】

私が教員をやっていた30年間も、そういう教員はいました。現実的には、教員採用がうまくいっていないのです。志望者が減っていますから、様々な人たちが学校現場にいることも事実です。先生は立派な人ではなく皆さんと同じような市民です。そういう人たちを探って排除していくと、なり手がなくなる可能性もあります。

大事なものは、保護者の皆さんや市民の方の目が学校に注がれるということ、怪しいという目ではなく信頼関係を作る芽を育てた方が、教員もそれに答えなければならないから下手なことはできないという人が増えていくと思います。

残念ながら今、同僚の間でもそういう関係が少なくなってきていて、お互いに監視しようとか、気を付けようねというマインドもなくなってきています。世の中がぎくしゃくした中で起きている、極端な形でそれが出ています。

公共施設についても、管理者だとか様々なレベルで監視体制などに取り組んでいかなければなりません。我々も検証していきたいと思っています。

子どもたちの安全を守らなければならないという気持ちも分かりますが、大人が全ての危険を取り除いたら子どもたちは自分を守る術を持つことができなくなります。危険な要素を全部取り除くことは不可能です。子ども自身が自分の身を守る、仲間と身を守るというようなことも育てていかなければならないので、是非そういう視点も、教員だとか、子どもと関わっている大人たちと考えるいただければと思います。

【市 民】

先生などに盗撮のカメラを仕掛けられていたら、子どもは防ぐことができないと思います。子どもを守るためにも、そういうような事業とか、公園なども含めて子どもたちと一緒に大人が守っていくべきではないかと思います。

【議 員】

子どもたちも、どうやって気を付けたらいいかということは学ばなければなりません。でもやり過ぎると、自分の先生も疑えという指導をしなければならないということにもなります。私なら、中学生に対してなら言うと思います。君たちもそういう対象になっているかもしれないから気を付けて、と、私のことも疑え、というのは、全部子たちに伝えたつもりですが、そこは合わせてやっていかなければならないということはおっしゃるとおりだと思います。

【議 員】

全道の公立高校のトイレの盗撮は一斉に調査が終了しています。公園に関しては、例えば北彩都公園はものすごくきれいですけれども、橋があつて欄干の下が少し暗くなっていたりとか、防犯上どうなのか、昼間から暗いという話もあつたり、子どもたちもきれいなトイレを使いたいわけですから、大人も含めて盗撮に関するチェックは大事になってくると思いますし、行政の責任なのだと思います。

市立の小・中学校や都市公園、街区公園のお手洗いというのはしっかりチェックして、安心安全のために、子どもたちの目的のためにも、そして市民の全ての皆さんが使いやすいトイレを総合的に発信していくことが大事だと思います。時間も経費もかかってくると思いますが、これはやらなければなりません。

公園に危険なところがあるとか、たまり場になるとか、旭川駅の南側がどうかよく言われるものがありますけれども、小さなことから、薄暗いところに街灯を付けるとか、トイレのチェックをしっかりとやって「旭川って安心で安全だよ」ということを発信していくことが最終到達点への一里塚になってくると思います。

【議 員】

こんな事件が多発するなんて思っていなかったと思います。技術が向上して、小さいカメラが気軽に買えるようになってしまったので、今すぐできることと言えば、確かにチェックもありますが、設置できないような個室を作るべきです。技術に現実が追いついていない状況というのは様々な場面で起きていますので、そういった対策もしなければなりません。10年後は違う盗撮の方法が恐らくできていると思います。5年後かも知れません。時代に合わせた対応は常々、毎年更新しながら考えていかなければならないと思います。これからも議論していきたいと思います。

【市 民】

「子育てしやすいまちづくり」というテーマで言うと、街灯が経費の関係で少なくなっているのではないかという話を聞きます。そういったところも問題を引き起こす原因なのではないでしょうか。子育てに関しての施策だけではなくて、関連する行政縦割りの部分があつて、他にしわ寄せが来るのかと思つたりして、結構難しいテーマだと思つていました。旭川は実際にはどうなのでしょう。街灯が減っていたりとか、公共施設に対する防犯上の部分に関して予算が減っている現状があるのでしょうか。

【議 員】

旭川市の場合、街灯の設置は町内会ということになっており、町内会ごとの判断で暗いところは増設をするということになっていますので、基本的には予算を減らしているとかではなく、町内会が50%払って旭川市が50%援助するという形になっています。

ただ、道路照明については市が設置していて、最近はLED化ということを検討して、今までの既存の水銀灯の球を用意できない中で照明が全く更新されないで切れたままになっているところもあります。御指摘のあつたことはしっかりやっつけていかなければならないと思います。

一方で、旭川新道とか国道の道路照明は歩道にも一応は付いていますが、間引きというか、照明を付けていないところはかなり見受けられ、市民からも点灯の要望もいただいているところです。防犯上のこともありますので対応していきたいと考えています。

【議員】

市道の街灯に関しては予算が減らされているから切れている状態を放っておくべきではありません。土木事業所に直接言っていただいてもかまわないですし、議員に言っていただいてもすぐ対応します。

【議員】

街灯の件に関しては町内会費で賄われているのは知っていますが、今20代、30代の住民で町内会に入らない人が多く、結果的にそういう弊害も生まれています。市民側の意識が固定化してしまうとコミュニティも希薄になったり、本来あるべきものであったものが削減されたりすることにもなります。任意で入らなくていいものが「その影響がこういうところの生活に弊害も起きるよ」みたいな話で私は今知っていますが、知らない人たちも多くいたりするのかなと思ひまして、そこをうまく情報発信や情報共有ができたらいいと思って聞いていました。

【議員】

今の点、町内会加入率が今50%ちょっとということです。町内会費の中で街灯費だとかゴミステーションの設置だとか様々な費用を出していますので、町内会加入者が減ってくると負担感というのはあると思います。街灯費を町内会から出しているということを知らない町内会未加入者の方もいらっしゃいますよね。市民に対する周知というか、町内会費でそういった街灯費が賄われている部分があるということを知っていただくことで加入を促すとか、町内会によっては、入らない世帯は街灯費だけ別に100円もらうという取組をしているところもあります。

【議員】

町内会で青少年部長をやっております。先ほど地域で子どもを見られる仕組みをとという話もありましたが、町内会活動をすることによって「ここにこういう子どもがいる」というのを把握したり、地域の大人との接点もできたり、不審者ではなくて「ラジオ体操のおじさんだ」というふうになるわけです。町内会に、市はもちろん加入してほしいというスタンスですけれども、住んでいる我々も、街灯費なりゴミステーションなり、お金がかかることも多いので、地域で負担できるという形である町内会に入ってもらうことが、より良い住みよい旭川につながると思っております。

【市民】

旭川市の教育、子育て系のリンクが切れていることが多かったり、2年前から更新されていないものが多いです。赤ちゃんと出かけられるところはどこか、子育てわくわくカレンダーとかを見てみたら、いつのだろうという感じのものが出てきます。公民館情

報、子育てサロン情報も最新が6月なのです。いつの6月かも分かりません。「一体どこへ行けばいいのだろう」という感じです。個人の方で子育てのカレンダーを作っているところがあって、いつもそこを見てお出かけしています。市の方でそういうのをちゃんと動かしてほしいと思っています。

今年の「子育てガイド」の38ページにある「あさひかわこども一」というのもリンクが切れているのです。何も見られない状態になっています。「昔は用意していたのだろうな」という残骸のようなものがたくさん見受けられる感じになっているので、使える状態になっていたら、これから子育てする方も助かると思います。

【市 民】

先ほど意見の中にあったプレママ・プレパパの会というか、パパになる準備、ママになる準備が少し手薄いのではないかという部分に関して、お母さんは体の変化があるから子どもが生まれるのだという実感があると思うのですが、男性側はそういう意識を持ちにくいというのを聞いたことがあります。行政側から用意するものではないかもしれないのですが、是非パパに焦点を当てて、男性たちだけで座談会のようなことをして、これから子どもが生まれてくる不安などについて話せる場があったらいいと思いました。今日せっかくここに先輩パパの市議の皆さんが集まっていますので、そういう取組があっても面白いと思います。

【市 民】

北見で妻が出産したとき、市の事業でプレパパ、プレママの両方の事業があって、そのときに、お母さんはこれからどれだけ大変なのかというのを、「赤ちゃんがおなかにいるとこれぐらいの重さです」というような器具を付けて歩く体験や、既に出産後のお母さんの話を聞くことに参加しました。そういったのもあって、私も最初の子が生まれたときは心の準備もできて迎えられるというのを思い出したので。旭川市でもそういうのができることによって、お父さん方が子育てに関心を持ってもらえたらいいと思いました。

【市 民】

北門児童センターとの交流を契機に、8年くらい前から小学校の総合学習に協力しています。平均年齢80歳の男女12、13人で構成される「北の散歩道環境保全プロジェクト」では、草刈りや枝打ちの他、5年前からは北海道教育大学の跡地で無農薬・有機栽培による「超自然栽培」の畑を運営しています。

今年は近隣の保育園児を招いて大根抜き体験を実施しました。市街地の保育園に通う子どもたちが泥だらけになって収穫を楽しむ姿は、保護者からも高く評価されています。こうした活動を通じ、地域では子どもたちが私を「じいじ」と呼んで駆け寄るなど、世代を超えた挨拶や交流が活発になりました。

最近では、子育て中の親同士や学校の教職員も積極的に挨拶を交わすようになり、地域コミュニティに変化が生まれています。厚生労働省や国土交通省が推進するように、まちづくりの基本単位は小学校区です。学校行事などで父親も含めた家族全員が地域住

民と交流できる場が必要です。

高齢者が集う「通いの場」だけでなく、多世代が日常的に関われる環境があれば、育児に悩む親が近隣住民に相談できる関係性も築けます。行政や市議会においても、小学校区を単位とした交流の場づくりを重視し、既存の枠組みにとらわれない柔軟な視点でまちづくりを検討すべきです。市議会議員の皆さん方は理事者の方にも「思考を変えて考えてみる」と、部長さん方にも言ってみたらいいと思います。

【議員】

幌加内町で教員を8年間やっていました。小学校区はほぼ幌加内町の市街区全部です。私は全ての母親・父親と面識もありました。ところが旭川に来ると、お父さんに会わない。お母さんとも会わないことが多い。小中学校では今は家庭訪問をあまりやっておらず、面談をやっているのではゼロではありませんが、よくないと思って旭川で教員をやっていました。

それを補うために、夏休みや冬休みに学級通信を持って家に行ったりもしていましたが、そういうことをしないと地域が繋がらない、学校と地域、親も繋がらない。どうしていったらいいのかは様々なアイデアもあると思いますけれども、自分が今住んでいる足元で何ができるのかということ、一人の市民としても考えたいと思います。

モデルケースを様々なところで取り組んでいくということ、旭川の子育てをメインにしたまちづくりということで是非考えていきたいと思いましたので、市の理事者とも一緒に考え、議員とも議論をしていきます。

まとめ

本意見交換会は、子育て世代の「生の声」と行政の「制度と実態の乖離」が浮き彫りになった極めて実践的な対話の場であった。特に、産後の極限状態における休息（レスパイト）不足や、夜間の緊急相談先が機能していないという切実な訴えは、既存の支援制度が市民のニーズに即応できていない現状を強く示している。また、プレーパーク推進に向けた活動拠点の要望や、盗撮などの防犯対策に対する不安など、多岐にわたる課題が提起された。議論を通じて、新たな窓口や施設を作るのではなく、既存の資源（施設や制度）を有効活用し、情報の整理・一元化を図るべきとの認識が共有された。総じて、町内会や小学校区単位での地域コミュニティの再構築の重要性も再確認され、今後の市議会における政策立案の明確な道標となる、非常に意義深い意見交換会であったと考える。

得られた課題等

- ・産後のレスパイトや夜間の緊急相談に対応できる制度づくり。
- ・プレーパークの推進に向けた活動拠点の拡充。
- ・盗撮などの危険から児童を守るための防犯対策。
- ・父親がより積極的に子育てに参加できるための取組。
- ・多世代が日常的に関われる環境づくり。

当日写真

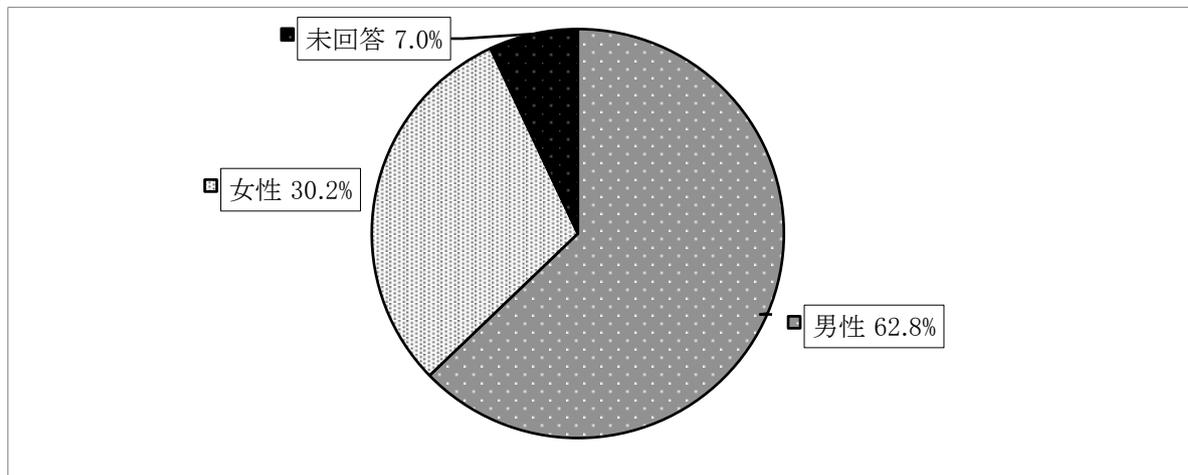


アンケート集計結果

※ 自由記載欄は、一部抜粋・要約をしています。

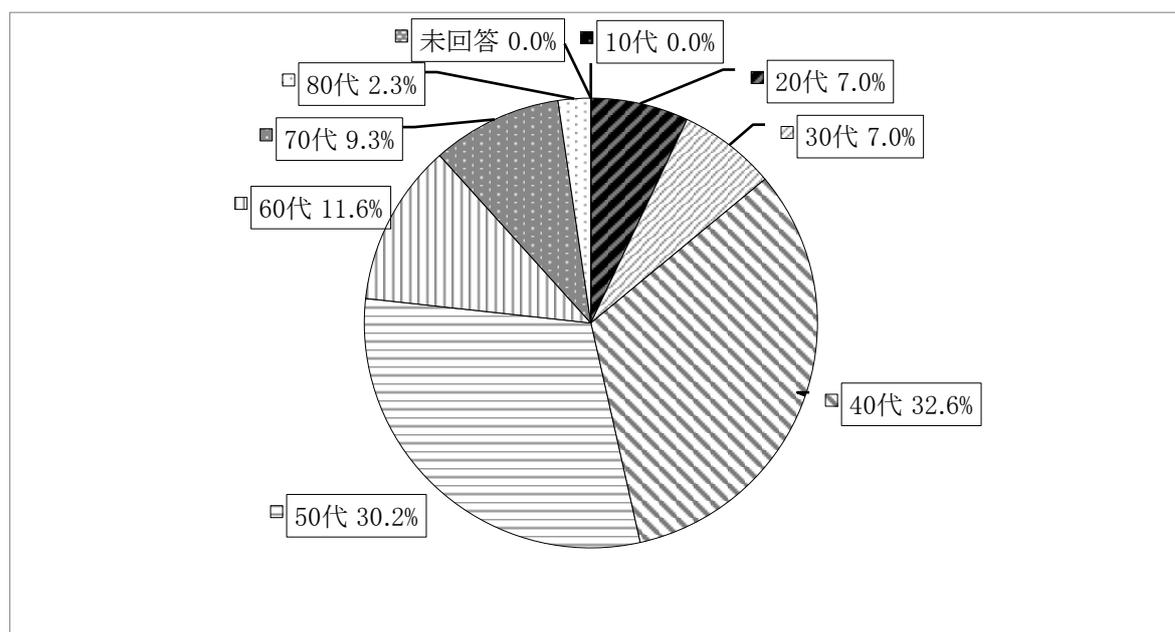
1 あなたの性別

性別	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
男性	4	12	7	4	27
女性	3	5	1	4	13
未回答	1	1	1	0	3



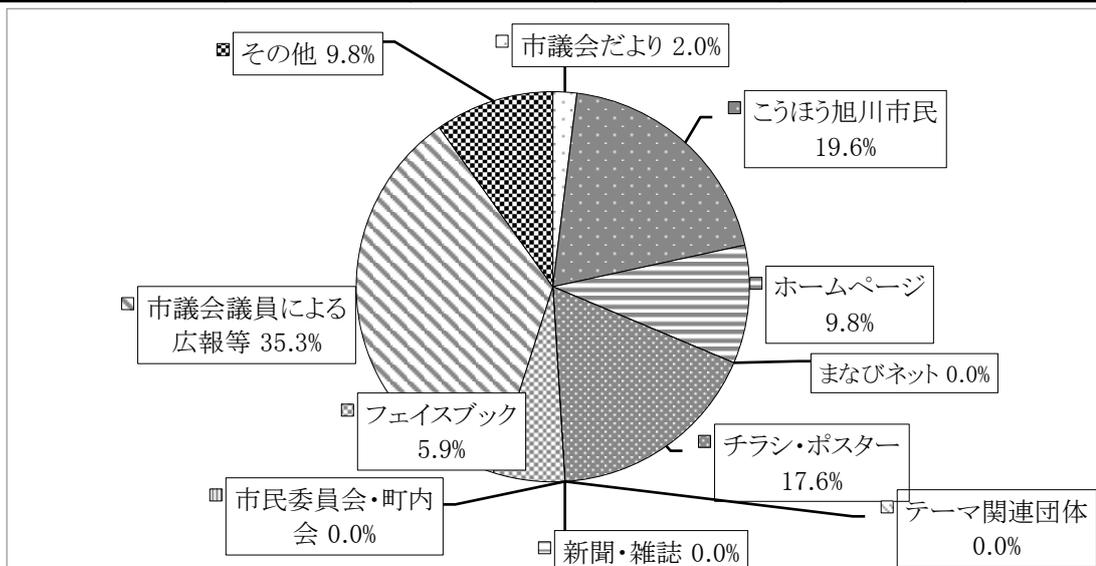
2 あなたの年齢

年齢	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
10代	0	0	0	0	0
20代	1	2	0	0	3
30代	0	1	0	2	3
40代	0	5	5	4	14
50代	5	6	1	1	13
60代	0	4	1	0	5
70代	1	0	2	1	4
80代	1	0	0	0	1
90代以上	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0



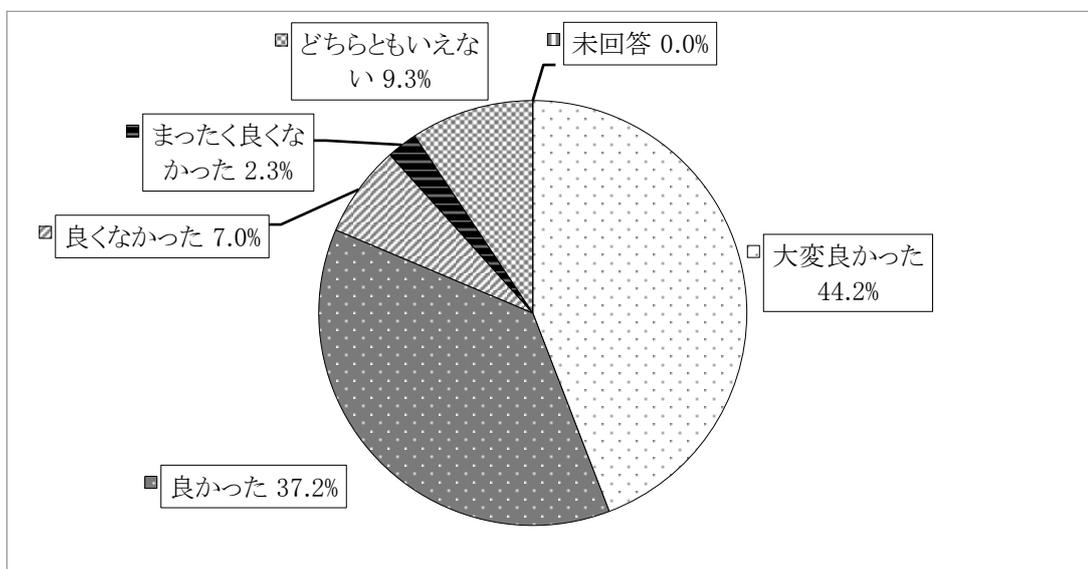
3 意見交換会の開催を、何を通じて知りましたか。

認知方法	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
市議会だより	0	0	0	1	1
こうほう旭川市民	4	2	2	2	10
ホームページ	3	1	0	1	5
まなびネット	0	0	0	0	0
チラシ・ポスター	1	4	2	2	9
新聞・雑誌	0	0	0	0	0
市民委員会・町内会	0	0	0	0	0
テーマ関連団体	0	0	0	0	0
フェイスブック	1	1	1	0	3
市議会議員による広報等	3	10	1	4	18
その他	0	2	3	0	5



4 本日開催した場所はいかがでしたか。

会場の感想	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
大変良かった	3	9	3	4	19
良かった	1	7	5	3	16
良くなかった	1	0	1	1	3
まったく良くなかった	1	0	0	0	1
どちらともいえない	2	2	0	0	4
未回答	0	0	0	0	0

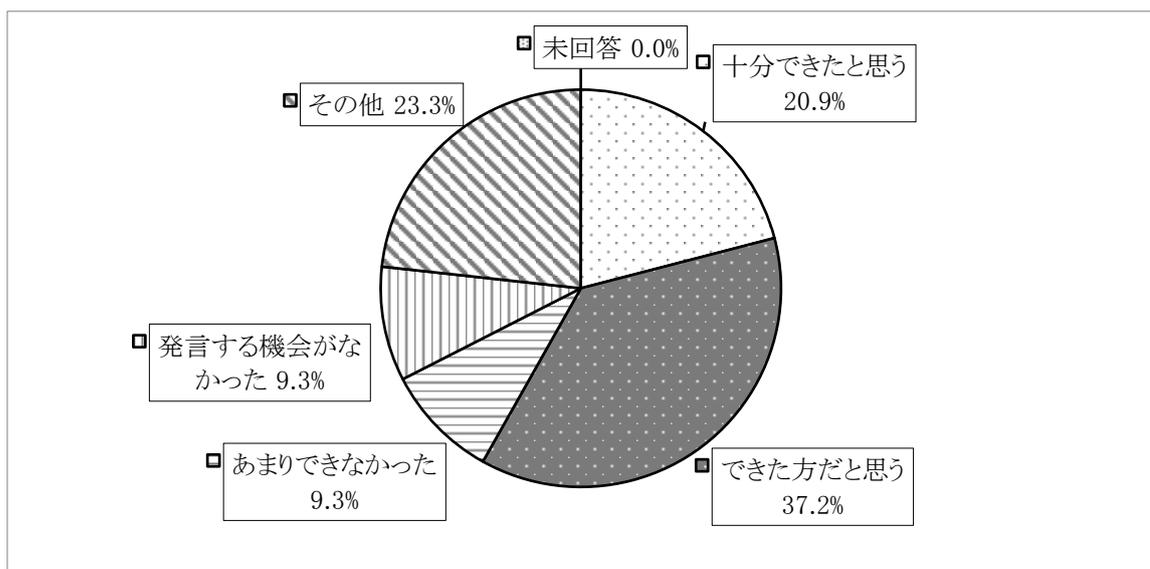


* 会場について特に意見等がありましたらお書きください。(自由記載)

班	記載された意見
総務班 (11月18日) 【総合庁舎 1階ロビー】	何故あそこでやるのか意味不明。
	雰囲気はとても良かったですが、窓際は寒かったかも知れません。
	季節柄、足元は寒いも、集合しやすい場所であると思う。(普段20時頃まで開放されているには初めて知った)
	議員が一行になって前にいる形ではあまり会場の形が良くない気がします。また、会場内の見通しも悪く、発言している人も見にくいことがありました。議員席からもそうだったのでは無いでしょうか。無料駐車場も少ないのであまり向いていないと思いました。
経済建設班 (11月26日) 【市議会議場】	議場に入るのが初めてだったのでとてもワクワクしました！
	市役所以外の場所もあっても良いと思います。
	意見交換会と言うより、市民と議員が対峙している感じがした。
	普段座れない席に座らせていただき恐縮です。
民生班 (11月27日) 【市議会委員会室】	水分は摂りたかった。
子育て文教班 (11月28日) 【市議会委員会室】	対面式ではなく円形になるようにだと反論が出にくくなるのでご検討頂けたらと思います。 託児があつて助かった。とっても立派。

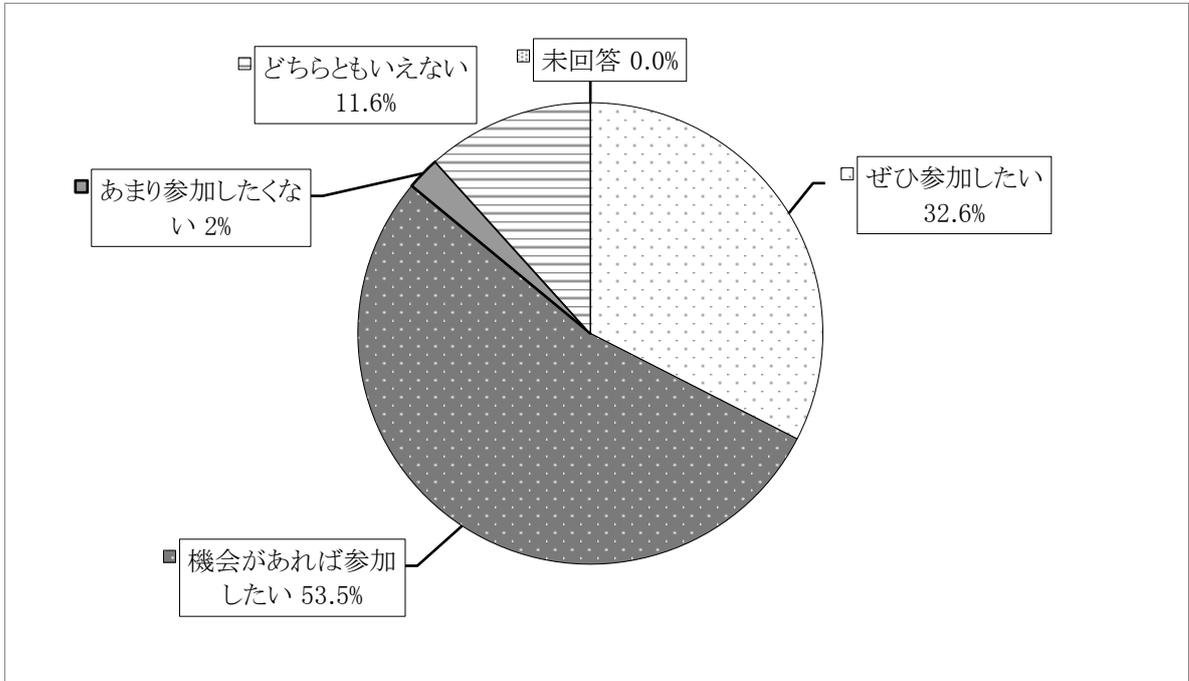
5 本日は議員と意見交換することができましたか。

議員との意見交換	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
十分できたと思う	2	3	1	3	9
できた方だと思う	2	5	6	3	16
あまりできなかった	0	4	0	0	4
発言する機会がなかった	0	4	0	0	4
その他	4	2	2	2	10
未回答	0	0	0	0	0



6 次回の意見交換会も参加してみたいですか。

次回の参加	総務班	経済建設班	民生班	子育て文教班	合計
ぜひ参加したい	2	7	2	3	14
機会があれば参加したい	5	8	5	5	23
あまり参加したくない	1	0	0	0	1
参加したくない	0	0	0	0	0
どちらともいえない	0	3	2	0	5
未回答	0	0	0	0	0



7 今後設定してほしいテーマや、本日の意見交換会に対する意見や感想などを、お書きください。（自由記載）

班	記載された意見
総務班 (11月18日)	<p>今回誘われたので意見交換会に立ち寄ってみました。余り良い印象を持ちませんでした。</p> <p>①「意見交換会」として成り立たない構成への違和感 会全体は2時間弱という限られた枠であったにもかかわらず、冒頭の約1時間を関係者による説明が占め、市民が意見を述べられる時間はごくわずかでした。 メインテーマは「これからのまちづくり・中心市街地活性化」だったのでそれをイメージして来場した方も多かったと思います。しかし実際には、案内にも書かれていなかった「産官学金連携」（この言葉はフライヤーには書かれていませんでしたし、会場で初めてその言葉が出てきたと思います）に特化しており、専門的で背景知識を要する内容が中心でした。事前資料がないまま会場で突然説明を受けても、理解しきれないまま発言を求められる印象が強く、形式としては意見交換会というより講演会やシンポジウムに近いものでした。「この構成で市民から意見を聞けるといった理由」がよくわかりませんでした。</p> <p>②会場の雰囲気が市民参加を阻むものになっていた 冒頭の関係者の説明が著名企業の役職者や大学教授といった「肩書に重みのある人」に偏っており、その内部での軽口混じりのやり取り（「〇〇先生が～」と呼び合うなど）が複数回見られました。また、途中議員からも「〇〇先生の意見を」という呼びかけもあり、市民が素朴な疑問や率直な意見を言うには心理的ハードルが高く、「市民と議員が対等に話す場」というより、「関係者同士の場に市民が招かれた」ような温度差を感じました。最初に発言した元市議の方の長い話も、場の空気を固くし、市民にとって「発言しづらい空気」をさらに強めていたように思います。</p> <p>③市民と議会が向き合う場としての意義が見えづらかった 今回のサブタイトルには「企業・大学・行政・金融機関の役割」と掲げられていましたが、そこに「市民」の文字はありませんでした。まちづくりは市民の暮らしと直結するテーマであり、本来であれば市民も重要な当事者のはずです。サブタイトルに市民が含まれていないことから、企画段階から市民が議論の主体として想定されていない印象を受けました。 議会と市民が直接言葉を交わせる機会は貴重だと考えていますが、今回は「市民が議員と話す時間」がほとんど確保されず、市民と議員が話をする構成にもなっていませんでした。以前住んでいた自治体で経験したような、議員と市民が落ち着いて話し合える場づくりを期待していた分、旭川市のように規模も体制も整った自治体でこのような形式が採られたことは残念です。今回のような内容であれば、意見交換会の枠を使わず、勉強会や講演会を開催すれば良かったのだと思います。「意見交換会だと思って」時間をとって参加した市民のことを、もう少し考えていただきたかったです。</p> <p>④市民と議会の意見交換会自体をもっと真剣に考えては？ 会場的にも多くの人が集まりにくく、やり取りがしにくい場所であり、スピーカーが多数設定され、内輪での議論が中心となるような形</p>

が、たまたま今回だけ起こってしまったとは考えにくいです。市議会議員の方々には、もっと「意見交換会とはどういうものか」を真剣に考えるべきではないでしょうか。

市民が置いてけぼりの中で「ぜひ市民の皆さんからの意見を」と促されても（数名の方がそう発言されていましたが）、「意見交換会という形をとるために、とりあえずそう言っているだけ」のアリバイ作りのようにしか見えませんでした。もし、参加している議員の方々がこの形で意見交換が成立すると思っていたのなら問題ですし、もし、意見交換が成立しなくても良いと思っていたのならそれも問題だと思います。

今年、あと3回意見交換会があるようですが、他の回が今回のような形になっていないかを事前に確認した方がよいのではないのでしょうか。

=====

市民として参加できました。議員の皆様には感謝申し上げます。難しい課題でしたが、各分野の説明があって現状の共通認識を持つ事ができました。市民からの意見を聴き、議員のお考えを聴ける貴重な機会ではありますが、参加者がテーマを切り口に持論を述べるだけになるのは大変残念です。資料と一緒に、「発言はテーマに沿って3分、ご理解とご協力に感謝します」等を示した発言カード(紙)を渡す、または、司会が指名する時に、再度アナウンスする等、ルールを守る事を徹底していくといいのではと思いました。

引き続き、機会があれば参加します。

=====

事例紹介を聞くことができよかったです。特に、中小企業家同友会のことは初めて知りました。

=====

市民一人ひとりの生活状況によって、見えている景色もちがうのだと感じました。市民の声を聞く手段として、より良い方法があるかもしれないと感じました。

=====

《今後、設定してほしいテーマ》

- ・ 21世紀の森の今後の在り方について
- ・ おひとり様の終活について、公的機関との関わり（どこまで共用できるのか？）具体的に知りたい。賃貸借についても。
- ・ 江丹別、東旭川、西神楽などの郊外の活性化について、それぞれの地域の方も交えて。

経済建設班
(11月26日)

・ 内容の進め方はわかりやすくよかったですと思う。問題提起が多く、時間がたりなかった。市民の方の関心が高いので、第2弾開催を望む!!

=====

- ・ パルプ職員、学生等の参加したい人を??して
- ・ ダンス、音楽等の活動は大事
- ・ 観光客は忘れて。どうせ来るから

=====

- ・ 中心市街地活性化は、これからも続けてください
- ・ JR富良野線を旭川空港まで延伸してください
- ・ カムイリゾート計画を進めてください

=====

たくさんの考え、想いがあって時間が足りないくらいで、うまくまとめていただけるとうれしいです

=====

観光について様々な考えがわかったので、深掘りしていただくと面白い。

=====

たくさんの人の意見を聞くことは、大変なことだと感じました。
夜の過ごし方について、文化的な過ごし方ができたらいいと、夢が広がりました。ありがとうございました。

=====

今回「ナイトタイムエコノミーってなに？」についての意見交換会に参加しました。そこでも発言させて頂いたのですが、こちらでも改めて意見を提出致します。

・住宅街のバス停に人感センサーライトを設置

「夜間の経済活動」というとイベントごとや観光の目玉を作ることに焦点がいきがちですが、その前段階として、「夜の街に安心安全に出かけられるまちづくり」として、外灯のない暗いバス停に人感センサー付のLEDライトを設置してほしいです。明かり一つで犯罪が減ったり、人流が生まれたりする効果がヨーロッパ圏で実証されており、イベント一発打つよりもコストパフォーマンスもいいのではないかと思います。夜の経済活動は、まず市民の足元を照らすことから。

・「#SANROKU」をブランド化

資料の事例⑤にあった「さんろく街スナックホッピングツアー」の写真がとても印象的で、バブル期からの歴史を持ち、文化的背景のある「さんろく」は世界に誇れるブランドではないかと思いました。特にさんろくのスナックのママさんたちは矜持を持ち合わせた強い自立した女性像としても象徴的ですし、「昭和レトロなスナックのカウンターで飲むなんてエモい」と若者世代にも打ち出せる、新しい「#SANROKU」という文化、ブランドをもっと売り出してほしいです。スナックでボトルを入れ、そのボトルに自分の名前の書かれたボトルネームを付け、「#mybottle」を流行らせれば、きっと観光的側面でも旭川発の世界的トレンドになると思います。

長くなりましたが、ぜひご検討の程宜しくお願い致します。

=====

《今後、設定してほしいテーマ》

- ・まちづくり、車イス等で過ごしやすい、シニアやハンディキャップのある人にもやさしいまちづくりについて
- ・アクションスポーツ、JR、ICTパークの活性
- ・この街のデザインを主導する組織（私としてはイベント）
- ・買物公園
- ・暮らしに関係すること。町内会に入る人が少ない。高齢者・車がない人の買物の大変さを解決すること。地域の足になる地域バス（ワゴン車程度）を作る。地域の足を作り守る。
- ・IT技術の活性化
- ・旭川市の経済について
- ・今後の意見交換会で取り扱ってほしいテーマは「シニアの孤立化問題」「学生の教育の場(不登校問題含む)」「金融リテラシーについて」「働く大人のケア」です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトタイムの続編 ・朝の活用など
<p>民生班 (11月27日)</p>	<p>寝ているのか考え事をしているのか。心がない様に見える議員さんがいたので、こういう時間に対してあまり興味がないのかと思った。</p> <p>市民の問いに対して、「この問題をあまり把握していない」・・・的発言をされた議員がいたことに驚き。知らなければ勉強してほしいし、それがいやなら違う仕事をされてはいかがでしょうか。専門家と席を設けて、勉強会を開かれてはいかがでしょうか。本日の趣旨とはかけ離れている気がします。</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>意見交換会どうもありがとうございました。</p> <p>今回の意見交換会では、市議の皆さんの勉強不足が気になりました。世間で騒がれているテーマだからこそ正しい情報を得ている市民から厳しい目で見られますので、半端な知識では逆に市政を混乱させてしまうだけになるのではと不安を感じました。</p> <p>テレビやインターネット上で無責任に垂れ流されている誤情報・ニセ情報を鵜呑みにして、山にドングリを植えるとか、ヒグマにはナワバリがあるとか、科学的な調査研究の結果、明確に否定されている言説を主張するなど、市民に対して誤った情報をバラ撒くのはいかがなものかと思いました。</p> <p>旭川市には幸いにも、もりねっと北海道の方や、旭山動物園の統括園長など、正しい知見をお持ちの人材がおりますので、正しく学んでから市民への発信を心がけていただきたいと思います。</p> <p>ヒグマの出没情報は、まさしく防災の観点から見ると同じようなものだという発言が議員からございましたので、ぜひとも市役所が隠さず正しく積極的に情報発信するよう、しっかり指導してくださいますようお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>今回は対面の交換会だったが、12名程度の参加者で有れば、ラウンドテーブルでの開催でも良いかもしれない。</p> <p>今回出た話も上手く市民に展開して欲しいと思う。</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>《今後、設定してほしいテーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価高対策、農業振興、若者の結婚、幸せづくり ・ヒグマは今後も止まりません。 ヒグマをテーマとして森林環境まで幅広くお願いしたいです。 ・シニアが安心して暮らせるまちづくり フィール7階のシニア大学の発表にもあるが、買物公園において、シニアが楽しめる場所が少ない。郊外ではなく中心部で楽しめる場所がほしい。 ・旭川を稼げる地域にする為の作戦会議 ・インバウンドと市民の交流 ・素晴らしい自然を生かすした産業化など
<p>子育て文教班 (11月28日)</p>	<p>本日のテーマ説明がざっくりしすぎていた（資料をみればわかるのですが・・・）</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>市民に対して議員さんがしっかり答えていただいたのは好感がもてま</p>

した。

ただ、眠っている議員さんがいたのは残念でした。（目をつぶっているだけなら申し分けありません）

=====

男性育児～（パパの）産休&育休がママの負担になるだけの件をなんとかしよう～

今日色々きいて、やはりパパの、男の意見はまとはずれだった。パパも親になってくれればそれだけで子育てしやすくなる

0～3歳の子育てが大変だったら2人目はもう産もうと思わない。逆に0～3歳の子育てが手厚かったら産みたくなり少子化対策になる。（学校入ってからの子とかにお金かけすぎ）

=====

今回の意見交換会にて二度発言の機会を頂きました。

ひとつは「親御さんのSOSを拾えるLINEの設置」、会全体でも親のサポートは課題のように感じられましたし、既存のサポート窓口も十分に機能していないような印象です。「今すぐ助けて」に時間問わずメッセージでやり取り出来る場所があると、ほんのちょっとだけでも親御さんの助けになると思います。

もうひとつは「パパだけの座談会」

ママにはママの、パパにはパパの、そしてそれは人それぞれに不安があるかと思います。男性だけの場で「妻が変わってしまった」「子育てに協力できるか本当は不安」などの本音を共有することで、「ひとりじゃないんだ」と前を向く機会になるのではないのでしょうか。

また事前資料に関して、直近での旭川市の取り組みがわかる事例集があると、意見の種になったかなと思います。

このたびは貴重な機会をありがとうございました。

=====

《今後、設定してほしいテーマ》

- ・ 障害者福祉、シニアが暮らしやすい街づくり
- ・ 老老介護について。介護する方のサポート
- ・ 今後の旭川市の財政について

(ファックス番号：24-7810、所在地：070-8525 旭川市7条通9丁目)

【問合せ】 旭川市議会事務局（広聴広報委員会） TEL 25-6380

このアンケートは、お持ちのスマートフォンやご自宅のパソコンから、インターネットで回答することもできます。

その場合は、この用紙への記入は不要です。

入力フォームのURLと二次元バーコード

<https://logoform.jp/form/iLZf/740988>



(入力フォームによるアンケート回答期限 開催日の一週間後まで)

市議会からのお知らせ

議会を傍聴しませんか

本会議や委員会は、どなたでも傍聴することができます。

【問合せ先】

- ・ 会議日程：議会事務局議事調査課（電話25-6318）
- ・ 本会議・委員会の傍聴：議会事務局議会総務課（電話25-6380）

【本会議では、補聴装置、手話通訳及び要約筆記を御利用になれます】

- ・ 補聴装置（受信機・イヤホン）は、傍聴受付の際にお申出ください。
- ・ 手話通訳は、傍聴予定日の3日前までに
議会事務局議会総務課（電話25-6380・FAX24-7810）又は一般社団法人
旭川ろうあ協会（電話45-0757・FAX45-0760）へお申込みください。
- ・ 要約筆記は、傍聴予定日の1週間前までに議会事務局議会総務課
（電話25-6380・FAX24-7810）へお申込みください。

本会議と議案審査特別委員会はインターネットでも御覧になれます。
○旭川市議会トップページの「市議会を見る・聞く」に続いて「会議録、議会中継」をクリックすると、視聴方法の選択画面に進みます。

旭川市議会ホームページ

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/council/index.html>

【編集】

旭川市議会 広聴広報委員会

【問合せ先】

旭川市議会事務局 議会総務課

〒070-8525 旭川市7条通9丁目48番地

電話 (0166)25-6380、FAX (0166)24-7810

電子メール

gikai_somu@city.asahikawa.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/council/index.html>

